



第39図 SB10 内出土遺物実測図 陶磁器

掘取番号	種別	器種	出土場所	調査(外側)	調査(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
332	東播系須恵器	壺	SB10	平行タキ	回転ナデ	褐色	-	-	-	

第22表 SB10 内出土遺物観察表 陶磁器



図版25 SB10 内出土遺物写真 陶磁器

33号掘立柱建物 (SB33 : 第56図)

グリッド：ヌー19区で確認した。1.2mの方形状を呈する小型建物である。柱穴の検出面からの深度は20~40cmを測る。

34号掘立柱建物 (SB34 : 第56図)

グリッド：ヌー19区で確認した。1.8mの方形状である。柱穴の径は30~50cm、深さは40~60cmを測る。

9号土坑 (SC09 : 第57図)

B地区、グリッド：ヌー14~15区で検出した。東側は不明。不定な形状を呈している。検出面からの深度は20~30cm。

10号土坑 (SC10 : 第57・59図・第31表・図版34)

D地区、グリッド：ニー19区で確認した。長径約1.7mの瓢箪形を呈する。検出面からの深度は約30cmである。出土土師器の総重量は660gであった。352~354は壺である。352はB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。353、354はC類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。353は底部下端が張り出す。

11号土坑 (SC11 : 第57・58図・第30表・図版34)

D地区、グリッド：ニー~ヌー20区で確認した。不定形を呈する。検出面からの深度は30cmほどである。351は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

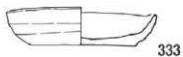
12号土坑 (SC12 : 第57・59図・第31表・図版34)

D地区、グリッド：ニー20区で確認した。1.2~1.3mの楕円形を呈する。検出面からの深度は40cmほどである。東側と南側にPit状の落ち込みがあり、深さは50cmを超える。

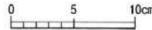
出土土師器の総重量は245gであった。355は壺でB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。356は小皿でC類中型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部から底部内面までが非常に浅い。

13号土坑 (SC13 : 第57・59図・第31表・図版34)

D地区、グリッド：ニー~ヌー20区で確認した。楕円形に北側にPit状の落ち込みがある。検出面からの深度



333



第40図 SB10 内出土遺物実測図 土師器

掲載番号	種別	器種	出土層 位	調 整(外面)	調 整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎 土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考
333	土師器	坏	SB10	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄緑 (10YR8/3)	浅黄緑 (10YR8/3)	5mm以下の砂物・砂粒	11.5	8.6	2.8	回転系切 板状压痕 外指頭痕

第23表 SB10 内出土遺物観察表 土師器



333

図版26 SB10 内出土遺物写真 土師器

は30cmほどである。

出土土師器の総重量は60gであった。357は坏底部～体部片である。底部下端が張り出す。

358は板状の鉄製品である。刀子の可能性が考えられる。

15号土坑 (SC15 : 第60・62図・第33表・図版37)

D地区、グリッド：ヌー21区で確認した。長径約1m、短径80cmの楕円形を呈する。検出面からの深度は約1.1mと非常に深い。

出土土師器の総重量は105gであった。362は小皿でB類大型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

16号土坑 (SC16 : 第60・62図・第33表・図版37)

D地区、グリッド：ネー21区で確認した。径約90cmのほぼ円形を呈する。検出面からの深度は20cmほどと浅く、北側半分は下端が明確でない。

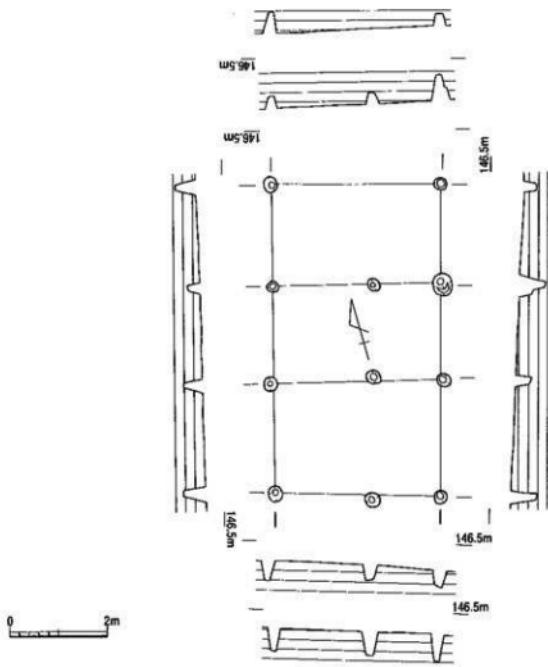
出土土師器の総重量は830gであった。363、364は坏底部～体部片である。底部下端が張り出す。

17号土坑 (SC17 : 第60～62図・第31・32表・図版36・37)

D地区、グリッド：ニ～ヌー21区で確認した。東側が明瞭でないが、東西の推定径が1.5m、南北径約1mの隅丸長方形を呈する。検出面からの深度は1.2mと非常に深い。

359は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に鑄蓮弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から13世紀前半にかけてのものである。360は白磁皿の口縁部片である。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。361は東播系須恵器鉢の口縁～体部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

出土土師器の総重量は490gであった。365～367は坏である。365はC類小型に分類される。底部から体部に



第41図 SB11 実測図

かけてやや直線的に立ち上がる。消耗が進む。366、367は底部～体部片である。366は底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が残る。367は焼成が堅緻である。

368、369は小皿である。368はB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までが浅い。369はC類中型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。

370は壺胴部片かと考えられる。平行タタキ目が残る。

18号土坑 (SC18: 第60・62図・第33表・図版35・37)

D地区、グリッド：セ-20～21区で確認した。SD14と切り合っており、西側半分は不明瞭である。検出面からの深度は20cmほどである。

出土土器の総重量は365gであった。371～373は壺である。371はB類中型に分類される。底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行するが、底部下端が張り出す部分も見られる。体部は曲線的に立ち上がる。底面には回転糸切離し痕が2巻と凹部への粘土の充填が確認される。372はB類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。373は底部～体部片である。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。

374、375は小皿である。374はB類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。375は小皿底部～体部片である。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。



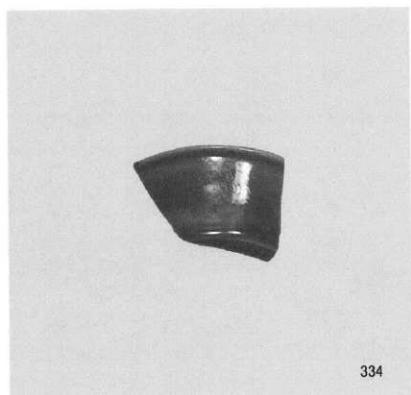
334

0 5 10cm

第42図 SB11 内出土遺物実測図 陶磁器

器種番号	種 別	器 種	出土層 遺 物	調 整(外面)	調 整(内面)	胎 土	口 径(cm)	底 径(cm)	器 高(cm)	備 考
334	青磁	环	SB11	施釉	施釉	灰白色	12.2	-	-	(反転復元) 龍泉窯系环皿-1類

第24表 SB11 内出土遺物観察表 陶磁器



図版27 SB11 内出土遺物写真 陶磁器

22号土坑

(SC22 : 第63~65図・第34・35表・図版38~40)

ス-24区で確認した。SR01と同様にSB01の内に位置するが、軸方向を異にし、かつSB01の柱穴と切り合っており、時期的にはSC22のほうがSB01に後続する。長軸は約3m、短軸は約1.8mを測る。検出面からの深度は1.4mほどである。西側1面にのみ石が積まれている。埋土の下層では粘土が確認でき、その保存的用途も想定できる。この西側面の石積状況はSR01と酷似している。ただし、土坑の規模はSC22のほうがやや大きい。

376は白磁皿の口縁-体部片で、口縁部はやや外反している。377は白磁皿の底部片で、底面に糸切り痕を明瞭に残している。いずれもⅢIX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。378は中国陶器(壺)の胴部片で、外面に軸の境目

がみられる。

出土土師器の総重量は1,485gであった。379は環でB類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

380~383は小皿である。380はB類小型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。381はB類中型に分類される。器高が1.9cmとやや高く、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。382はB類大型に分類される。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。SB28出土の破片と接合している。383はC類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

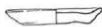
384は鉄釘で、頭部を欠損する。385はピンセット状の銅製品で、片側を欠損している。386は丸瓦である。凹面に布目痕が認められる。

23号土坑 (SC23 : 第60図)

D地区、グリッド：ヌ-21区で確認した。長径約1m、短径80cmの橢円形を呈する。検出面からの深度は70cmほどである。

24号土坑 (SC24 : 第66図)

D地区、グリッド：ハ-26区で確認した。長径約1.1mのほぼ円形を呈する。検出面からの深度は20cmほどで、浅く平たい。



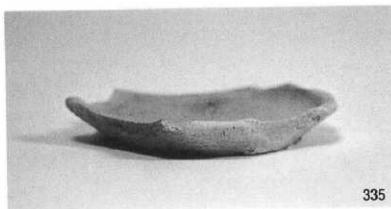
335

0 5 10cm

第43図 SB11 内出土遺物実測図 土師器

測量番号	種別	器種	出土層 遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
335	土師器	小皿	SB11	回転ナデ	回転ナデ・指ナデ	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	浅黄褐色 (7.5YR8/4)	ごく微小の筋物・砂粒	7.6	5.3	1.2	回転条切 指頭直

第25表 SB11 内出土遺物観察表 土師器



335

図版28 SB11 内出土遺物写真 土師器

26号土坑 (SC26: 第66図)

D地区、グリッド: ノ-27区で確認した。長径約1mの円形を呈する。検出面からの深度は1.2mを測り、基本土層のⅢb・Ⅲc層、Ⅳ層を壁面としている。

27号土坑 (SC27: 第66・68図・第37表・図版42)

D地区、グリッド: ノ-25区で確認した。SC26と同様径約90cmの円形を呈し、検出面からの深度は1.2mを測る。基本土層のⅢb・Ⅲc層、Ⅳ層を壁面としている。

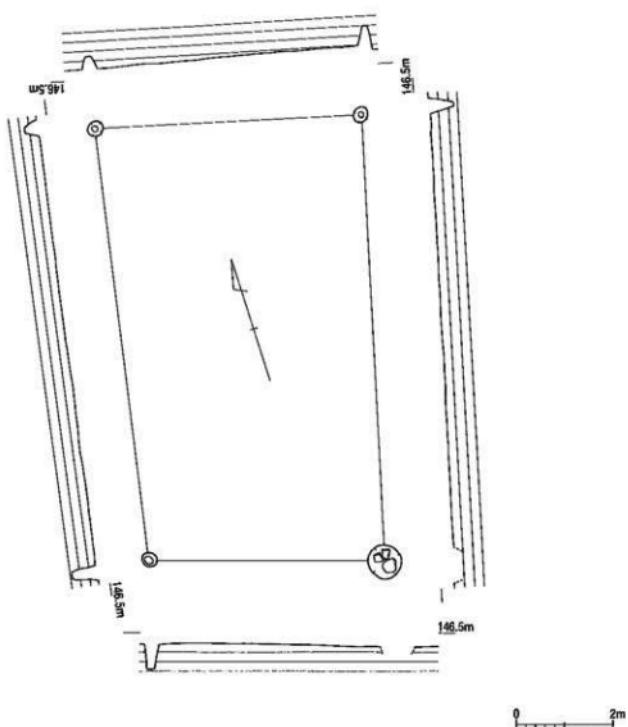
出土土師器の総重量は185gであった。389は土師器坏でA類中型に分類される。回転ヘラ切離しの後、ナデ調整を施す。底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。

28号土坑 (SC28: 第66~68図・第36・37表・図版41・42)

D地区、グリッド: セ-ソ-22~23区で確認した。破壊によるものと思われるが、ほとんどが不明瞭である。387は龍泉窯系青磁碗の口縁~体部片で、内面に文様が施されている。碗I-2類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。388は東播系須恵器鉢の口縁~体部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

出土土師器の総重量は1,905gであった。坏は浅黄橙色系、小皿は橙色系の色調が主となっており、器種により相違が見られる。390~393は坏である。390、391はC類小型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。390は焼成が堅緻である。391は外面にロクロ目が明瞭に残る。392はC類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。体部外面にロクロ目が明瞭に残る。393はC類大型に分類される。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。

394~441は小皿である。394はB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。395~406はB類大型に分類される。395は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて外反しながら立ち上がる。396は底部から体部にかけて直線的に大きく開く。397、398は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。399は底部から体部にかけて薄くはあるが段差が形成される。400~



第44図 SB12 実測図

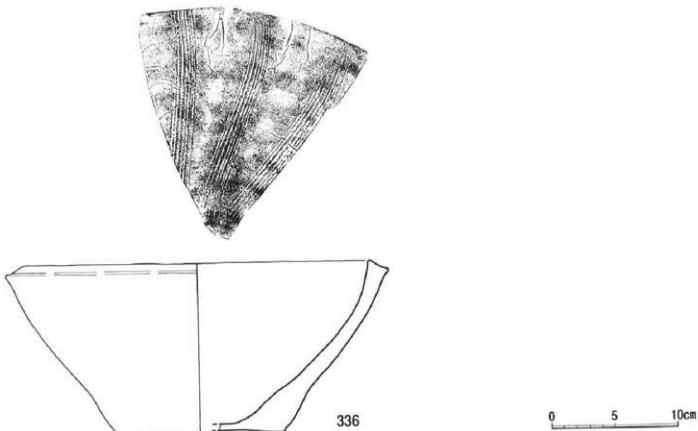
404は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。402は底部から体部にかけての一部に段差が形成される。405は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。406は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。407はC類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。408～411はC類大型に分類される。408、411は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。409、410は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

412～417は銅貨で鋳造が進む。412、413は「開元通宝」と読める。414、415は「元豊通宝」と読める。波来銭もしくはその模倣銭と考えられる。

29号土坑 (SC29 : 第66・68図・第37・38表・図版42)

D地区、グリッド：ソ-22区で確認した。長径約1.3m、短径約1.2mを測る。東側にはわずかにテラス状の段を形成している。検出面からの深度は1.3mほどである。

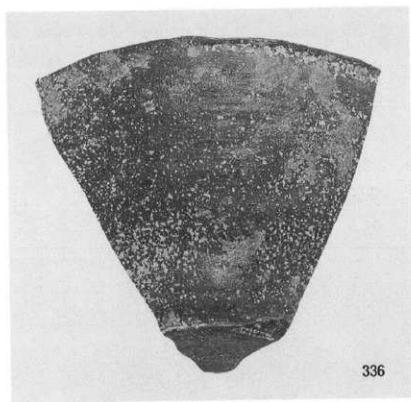
出土土師器の総重量は1,510gであった。418～421は坏である。418はC類小型に分類される。器高が4.1cmと高い。底部下端がやや張り出し、体部は一旦屈曲した後、やや曲線的に立ち上がる。419はB類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。橙色系の色調を呈する。420は



第45図 SB12 内出土遺物実測図 陶磁器

規範 番号	種 别	器 種	出土層 道 機	調 整(外面)	調 整(内面)	胎 土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備 考
336	備前	撲鉢	SB12	自然軸	回転ナメ	褐灰色	30.4	13.4	13.3	(反転復元) IIIa期 14C代

第26表 SB12 内出土遺物観察表 陶磁器

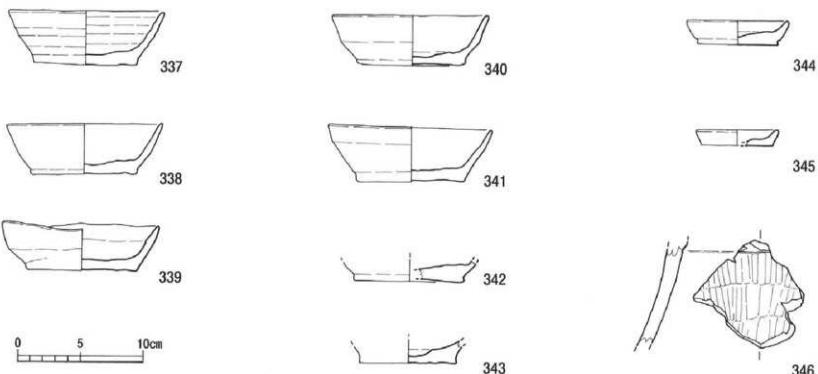


図版29 SB12 内出土遺物写真 陶磁器

縁部をやや薄く仕上げる。431は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内面における底部と体部との境が不明瞭である。432~434はC類大型に分類される。432は底部から体部にかけて段差が形成される。433は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部の器壁が非常に薄い。焼成は堅緻である。434は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。

C類中型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。421は底部片である。底部下端がやや張り出す。

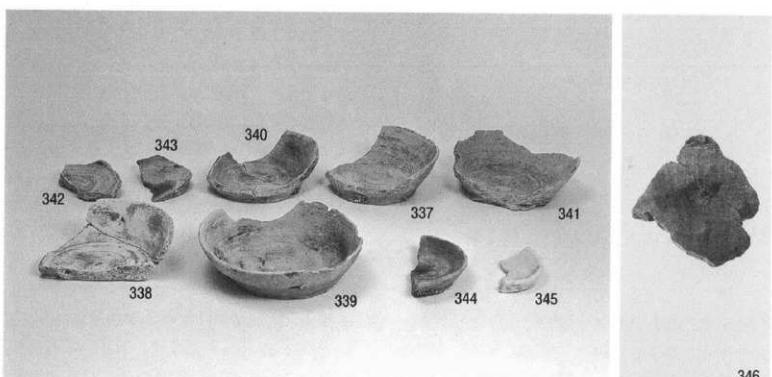
422~434は小皿である。422~426はB類中型に分類される。422は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。423は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。焼成は堅緻である。424は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。焼成は堅緻である。425は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。426は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。427~431はB類大型に分類される。427~430は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。427は口縁部をやや薄く仕上げる。431は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内面における底部と体部との境が不明瞭である。432~434はC類大型に分類される。432は底部から体部にかけて段差が形成される。433は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部の器壁が非常に薄い。焼成は堅緻である。434は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。



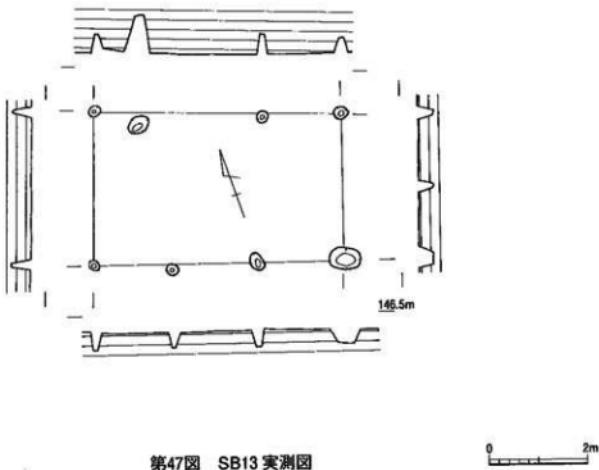
第46図 SB12 内出土遺物実測図 土師器・石製品

編號 番号	種別	器種	出土層 遺構	調 整(外面)	調 整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎 土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考
337	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	12.4	8.2	4.4	回転系切 板状底 外指頭痕 反転復元
338	土師器	环	SB12	回転ナデ→指ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	ごく微小の鉢物・砂粒	12.4	8.5	4.0	回転系切消耗 反転復元
339	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	12.3	8.3	3.5	回転系切 板状底 外指頭痕
340	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	4mm以下の鉢物・砂粒	12.5	8.7	4.0	回転系切 板状底 反転復元
341	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の鉢物・砂粒	13.5	8.6	4.4	回転系切 内薄く鉢分付着
342	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	-	9.0	-	回転系切 外指頭痕 内薄く炭化物付着 反転復元
343	土師器	环	SB12	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	-	7.8	-	回転系切 板状底 内薄く炭化物付着 反転復元
344	土師器	小皿	SB12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	にごん黄褐色 (10YR7/2)	にごん黄褐色 (10YR7/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	8.2	6.4	1.9	回転系切 内薄く炭化物付着 反転復元
345	土師器	小皿	SB12	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (2.5YR8/2)	灰白 (2.5YR8/2)	ごく微小の鉢物・砂粒	6.5	5.8	1.3	回転系切 板状底 磨耗 反転復元
346	滑石製品	石鍋	SB12	-	-	-	-	-	-	-	-	破片

第27表 SB12 内出土遺物観察表 土師器・石製品



図版30 SB12 内出土遺物写真 土師器・石製品



第47図 SB13 実測図

6号溝状遺構 (SD06: 第69~71図・第39・40表・図版43・44)

セ～ソ～20～21区にある。SS01の真下に位置する。調査区外から北へのび、弓形に北西方向へ折れ、消滅している。幅員は80cmほどで、深さは不明である。

435は束縛系須恵器鉢の口縁～体部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉が僅かにみられる。

出土土師器の総重量は1,470 gであった。436、437は壊である。436はB類中型に分類される。器高が2.8cmとやや低い。底部下端が張り出し、底部はごく薄い円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がる。底部内面は指ナデを施し平坦に調整する。437はB類大型に分類される。器高が2.8cmとやや低い。底部と体部との境は不明瞭で、底面から引続いて緩やかに体部へと移行する。体部は直線的に立ち上がる。底部内面は指ナデを施し平坦に調整する。

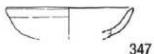
438～440は小皿である。438、439はB類中型に分類される。438は底部下端がわずかに張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。439は底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。440はB類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。

7号溝状遺構 (SD07: 第72・73図・第41表・図版45)

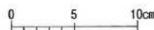
ナ～ソ～18～20区で検出した。幅員は80cm程度で、検出面からの深度は25～30cmほどである。東西に20mほどが検出できているが、両サイドともに調査区外へのびている。東よりでSD09が付いている。

出土土師器の総重量は945 gであった。壊に対し小皿の出土量が少ない。436～447は壊である。441はB類大型に分類される。底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。体部は一旦屈曲した後、曲線的に立ち上がる。底面には板状圧痕が残る。442はC類中型に分類される。底部下端が張り出し、体部は一旦緩やかに屈曲した後、曲線的に立ち上がる。内外面に多量の炭化物、鉄分の付着が見られる。443はC類大型に分類される。器高が4cmとやや高い。底部下端が張り出し、体部は曲線的に立ち上がる。444～447は底部～体部片である。いずれも底部下端が若干張り出す。

448は小皿でB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。



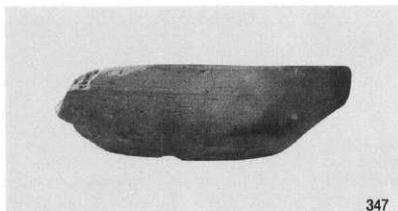
347



第48図 SB13 内出土遺物実測図 土師器

掲載番号	種別	器種	出土層 道橋	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
347	土師器	坏	SB13	回転ナデ	回転ナデ	灰黄 (2.5YR7/2)	灰黄 (2.5YR7/2)	ごく微小の鉢物・砂粒	102	-	-	外輪削痕 反転復元

第28表 SB13 内出土遺物観察表 土師器



347

図版31 SB13 内出土遺物写真 土師器

8号溝状遺構 (SD08 : 第72・73図・第41表・図版45)

SD07のすぐ北側、ヌ～ネ-19～20区にある。西側は消失してしまっており、そこから東へのびて、折れて調査区外へ向かっている。幅員は約60cm、検出面からの深さは約50cmを測る。

出土土師器の総重量は955gであった。449は坏でC類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は曲線的に立ち上がる。450は坏底部～体部片である。底面下端が張り出す。

451、452は小皿である。451はB類大型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。底部が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。452はC類中型に分類される。底部下端がやや張り出す。口径に対する底径の比率が非常に高く、底部から体部にかけて急な角度で直線的に立ち上がる。

9号溝状遺構 (SD09 : 第72・73図・第41表・図版45)

SD07と接している。幅員は30cm、検出面からの深さは10cmに満たない。南へ走向する。

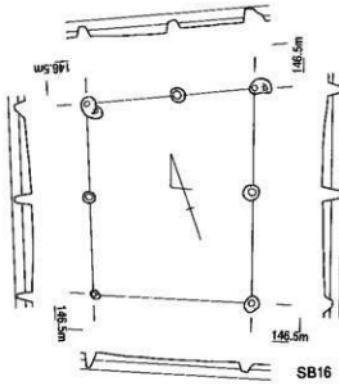
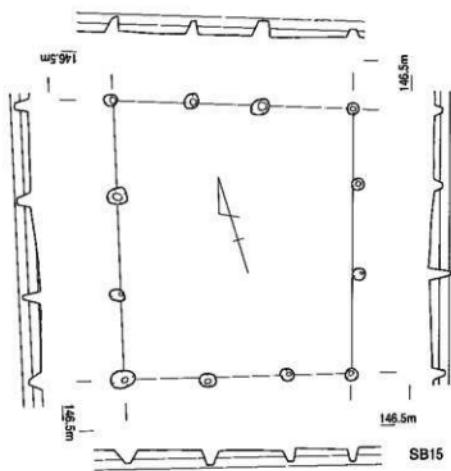
出土土師器の総重量は485gであった。453～457は坏である。浅黄橙色系の色調が主となる。453、454はB類中型に分類される。453は底部下端がやや張り出し、体部は直線的に立ち上がる。454は底部下端が張り出し、体部は一旦屈曲した後、急な角度で直線的に立ち上がる。455～457は底部～体部片である。455は底部下端の一部が張り出す。456は底部下端が張り出し、糸痕跡が巡る。

10号溝状遺構 (SD10 : 第74図)

ナ～ニ-20区にある。幅員は30cmほどで、4mほど確認できている。検出面からの深度は10cmに満たない。南にSD11が接している。

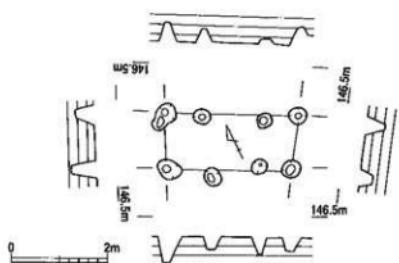
11号溝状遺構 (SD11 : 第74図)

ナ～ニ-20～21区にある。幅員は30cmほどで、2mほど確認できている。検出面からの深度は10cmに満たない。SD10が北接している。SD10とは切り合わない。



0 2m

第49図 SB15・16 実測図



第50図 SB17 実測図

12号溝状遺構

(SD12 : 第75~77図・第42・43表・図版46・47)

ネ-23~24区で検出した。北側調査区外へのびる。南側へは7mほど走向して消滅している。幅員は50cm強、検出面からの深さは30cm強を測る。

458は常滑窯の口縁～頸部片で、外面に指頭痕を残し、また自然釉がかかっている。内面には輪積み調整痕を残している。

459は土師器小皿でB類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

13号溝状遺構

(SD13 : 第81~84図・第46~51表・図版51・54~58)

D地区、グリッド：ヌ-31区に位置し、東西に走行

する溝状遺構である。西側は調査区外へのび、東側はSD26と接する付近で消失している。東西に走る道路建設部分が元来擾乱を受けており、消失しているのはそのためであろう。上端の径は推定で1.2mほど、検出面からの深度は50cmほどと、小型の溝状遺構である。しかし、ここからの遺物出土量には目を見張るものがあつた。土器が廃棄されたような状態で大量に出土した。

532は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、内・外面に施文されている。碗I - 6 a類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。542は青白磁合子（身）の口縁～底部片である。

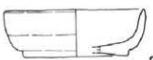
出土土器の総重量は31,675gであった。564~586は壺である。564はB類の小型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は一旦緩やかに屈曲した後、直線的に立ち上がる。565~571はB類の中型に分類される。565~567は底部下端が張り出し、底部は円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がる。568は底部下端が若干張り出し、体部は一旦屈曲した後、直線的に立ち上がる。外面にはロクロ目が明瞭に残る。569~571は底部下端が張り出し、底部は円盤状を呈する。体部は曲線的に立ち上がる。572はB類の大型に分類される。底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には屈曲も見られる。573はC類の小型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。574~586はC類の中型に分類される。574は底部下端が張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部は直線的に立ち上がる。575は底部下端が大きく張り出す。体部は曲線的に立ち上がるが、器形の歪みにより直線的な部分も見られる。576、577は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。577は体部の一部に屈曲が見られる。外面にはロクロ目が残る。焼成は堅緻である。578~584、586は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。580は底面に2回の切離し痕跡が残る。581は底部下端に糸痕跡、体部外面には明瞭なロクロ目が残る。584は体部に接合痕が確認される。585は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。586は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。

587~598は小皿である。587~591はB類の中型に分類される。587~591は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。587、588、590は口縁部を薄く仕上げる。587は底部外面に糸痕跡が残る。592~595はB類の大型に分類される。592は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。593は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。594~595は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。595は底部下端に糸痕跡が残る。底部内面中央が大きく凹み、器壁がごく薄くなる。597、598はC類の中型に分類される。596、597は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。598は坏口縁部片である。木葉痕が残る。

599は坩堝片である。口縁部から内面にかけて溶融物の付着が見られる。600は板状の鉄製品である。先端が曲がり、上半を欠損する。



348



349



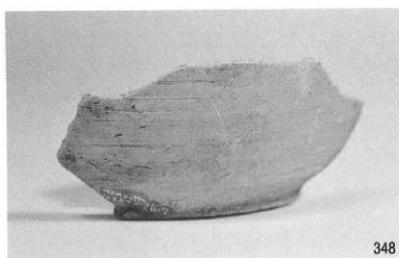
350

第51図 SB17 内出土遺物実測図 土師器

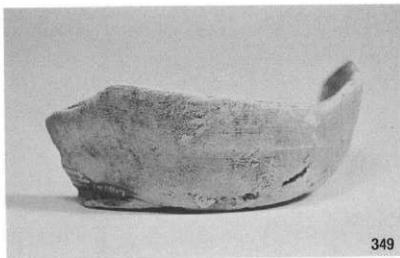
0 5 10cm

掲載番号	種別	器種	出土層 遺構	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	厚高 (cm)	備考
348	土師器	坪	SB17	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐 (10YR7'3)	淡黄褐 (10YR8'3)	1mm以下の粘物-砂粒	14.6	9.8	5.1	回転系切 外指頭板 反転復元
349	土師器	坪	SB17	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐 (10YR8'3)	淡黄褐 (10YR8'3)	1mm以下の粘物-砂粒	11.4	8.6	3.7	回転系切 板状圧板 外指頭板 反転復元
350	土師器	坪	SB17	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐 (10YR8'4)	淡黄褐 (10YR8'4)	3mm以下の粘物-砂粒	-	9.0	-	回転系切 板状版 反転復元

第29表 SB17 内出土遺物観察表 土師器



348



349

図版32 SB17 内出土遺物写真 土師器

14号溝状遺構 (SD14 : 第78図・図版48)

D地区、ス-20～ス-21区にある。北側は調査区外へのび、南側はSD16とつながる。西側にはSD15が隣接し、東側はSC18が切り合っている。幅員は80cm程度で検出面からの深度は30cm弱を測る。SD16とつながる直前でSD15と合体している。SC18よりも時期的に新しいと思われる。

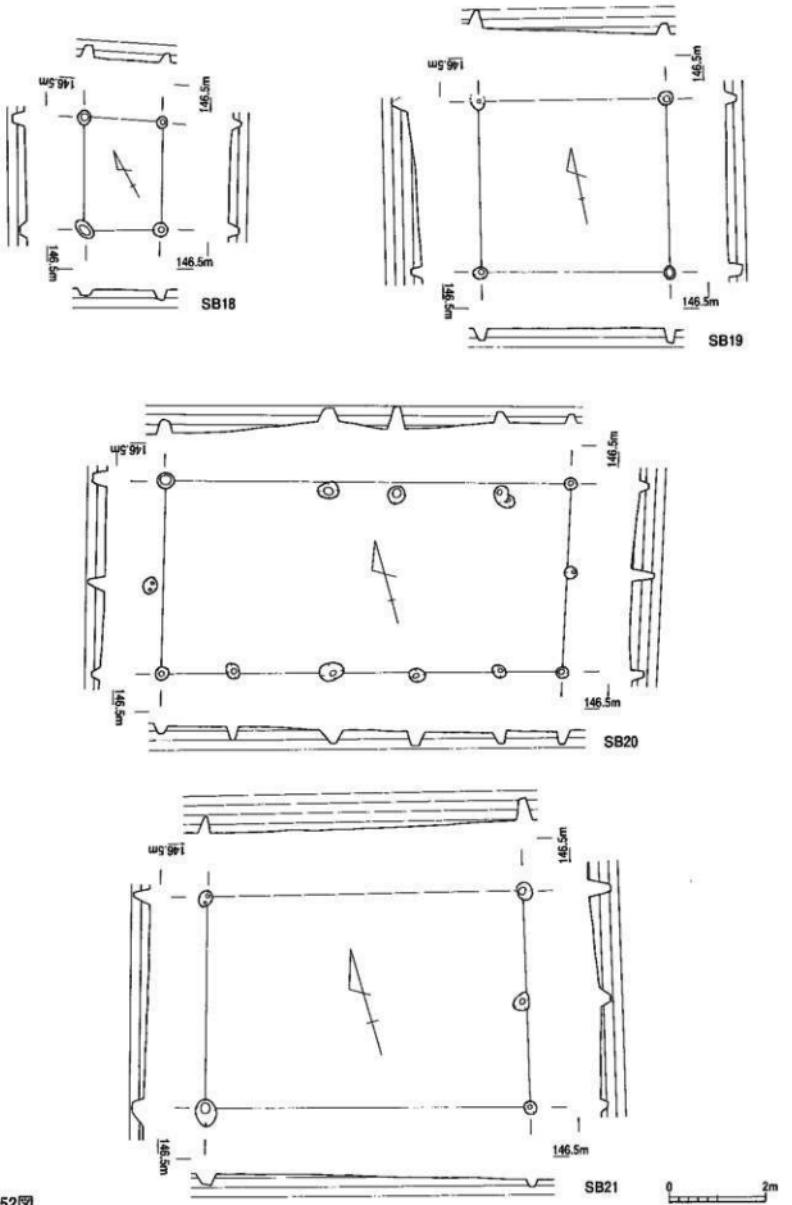
15号溝状遺構 (SD15 : 第78図・図版48)

D地区、ス-20～ス-21区にある。北側は調査区外へのび、南側はSD16とつながる。東側にはSD14が隣接している。幅員は40cm程度で検出面からの深度は10cm弱を測る。SD16とつながる直前でSD14と合体している。

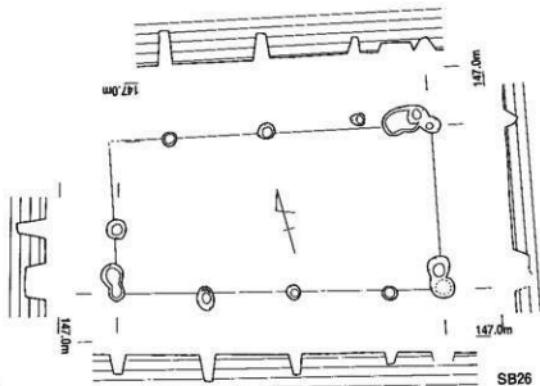
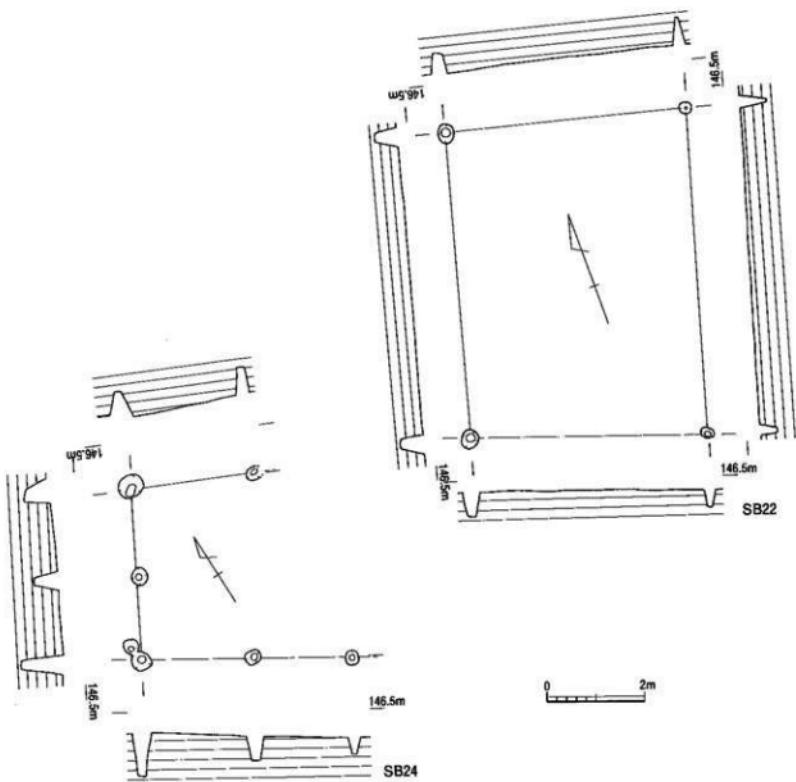
16号溝状遺構 (SD16 : 第78～80図・第44・45表・図版48～50)

D地区、シ-22～ソ-22区において東西に走行する。東西ともに調査区外へのびている。西側にはSD17が隣接している。幅員は80cm程度で検出面からの深度は10cm弱と浅い。中央付近で合体したSD14・15とつながる。SD17との関係は土層断面の状況からSD17→SD16の時期差がある。

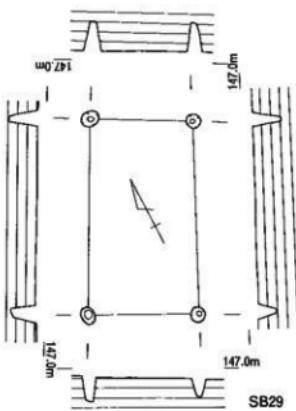
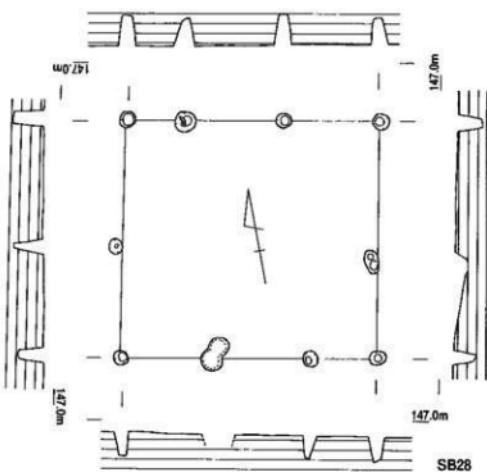
460は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に片彫蓮弁文が施されている。碗II-a類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。461は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に鎬蓮弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。467は白磁皿の口縁～底部片である。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。468は白磁碗の口縁部片である。碗V-4類かVII類に相当すると思われる。469、471は白磁皿の体～底部片である。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。473は青白磁梅瓶の胴部片で、外面に櫛描文が施され、内面にはロクロ目を明瞭にこしている。474は中国陶器盤の口縁部片で、内・外面に線釉がかかる。盤I-2類に相当し、13世紀後半のもの



第52図
SB18・19・20・21 対測図

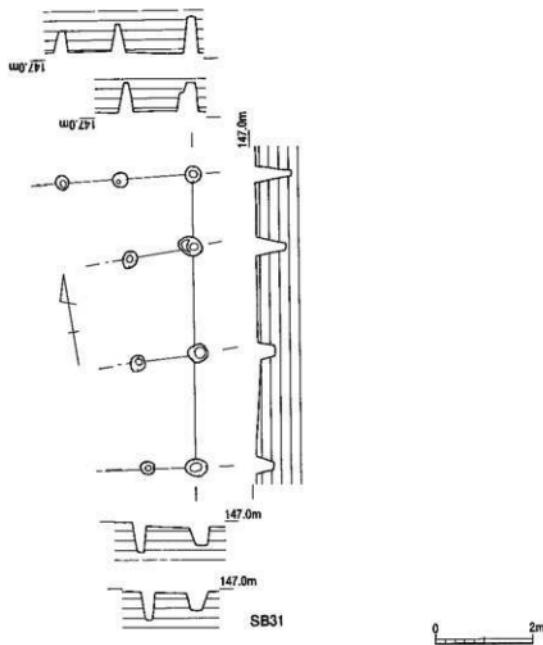
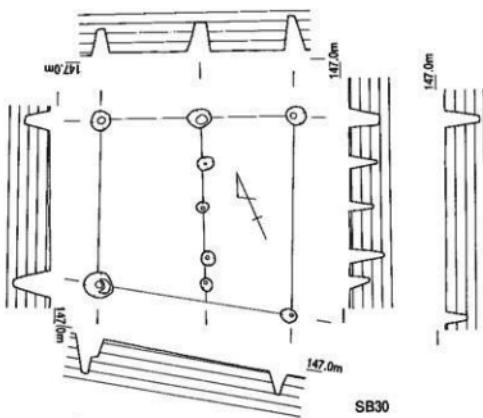


第53図
SB22・24・26 実測図

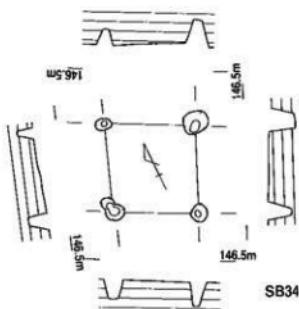
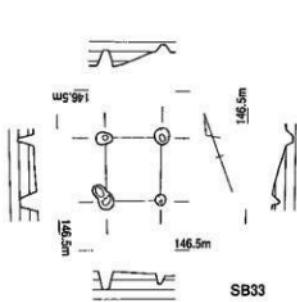
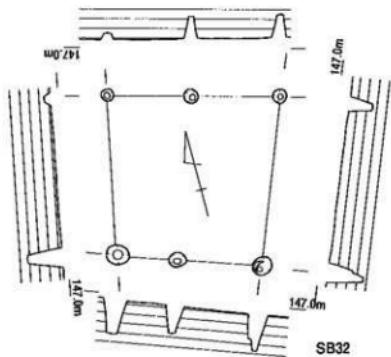


第54図 SB28・29 実測図



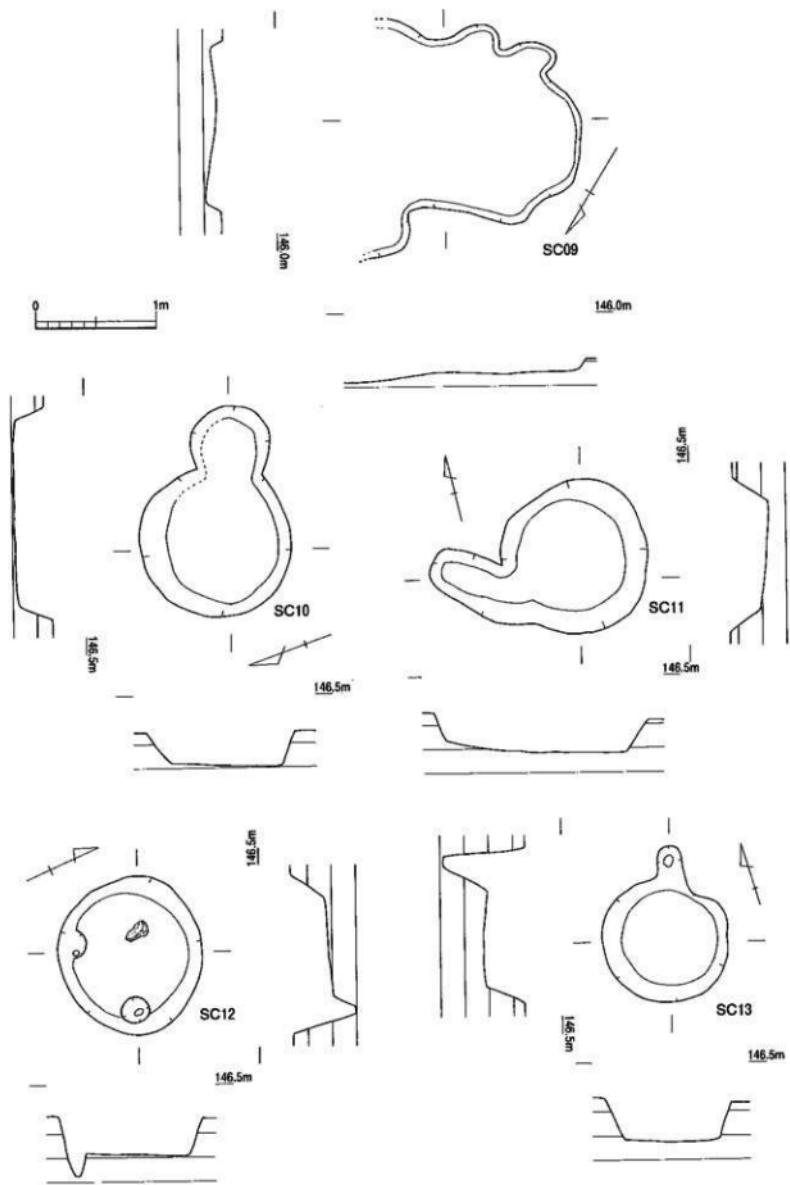


第55図
SB30・31 実測図



0 2m

第56図 SB32・33・34 実測図

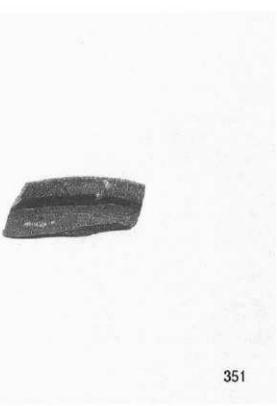


第57図 SC09・10・11・12・13 実測図

第58図 SC11 内出土遺物実測図 陶磁器

掲載番号	種類	器種	出土層位	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
351	東播系須恵器	鉢	SC11	回転ナメ	回転ナメ	褐灰色	-	-	-	

第30表 SC11 内出土遺物観察表 陶磁器



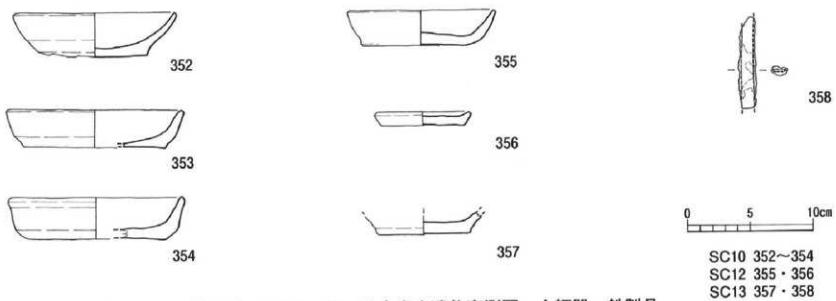
351

図版33 SC11 内出土遺物写真 陶磁器

と思われる。475、479は東播系須恵器鉢の口縁～体部片、477、478は口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。482は東播系須恵器鉢の底部片で、底面に回転糸切り痕を明瞭にのこしている。483は東播系須恵器鉢の体～底部片で、底面に回転糸切り痕を僅かにのこし、また初痕跡がみられる。

出土土師器の総重量は50.365gであった。484～500は坏である。多くに体部外面に明瞭なロクロ目や底面に板状圧痕が残る。484～487はB類中型に分類される。484は底部下端が張り出し、糸痕跡が1／4周程度残る。体部は一旦緩やかに屈曲した後、やや曲線的に立ち上がる。485は底部下端がやや張り出す。器形の歪みが酷く、体部は直線的となる部分と、屈曲している部分がある。486は底部が円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。487はB類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は一旦緩やかに屈曲した後、直線的に立ち上がる。器形の歪みにより体部の一部は直線的となる。焼成は堅緻である。488、489はC類小型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。体部外面には明瞭なロクロ目が残る。490～497はC類中型に分類される。490は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。体部外面には明瞭なロクロ目が残る。491は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。体部外面には明瞭なロクロ目が残る。492は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、外面には明瞭なロクロ目が残る。493は器高が2.9cmと低い。底部下端が張り出す。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がるが、一部には緩やかな屈曲も見られる。外面には明瞭なロクロ目が残る。494は器高が4.1cmと高い。底部下端が張り出し、体部は曲線的に立ち上がる。体部外面にはロクロ目が残り、焼成が堅緻である。495は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。体部外面には明瞭なロクロ目が残る。496は底部下端が張り出す。体部はやや曲線的に立ち上がるが、一部には緩やかな屈曲も見られる。外面には明瞭なロクロ目が残る。497は底部下端が張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。498、499はC類大型に分類される。底部下端が張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。500は底部下端が張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。

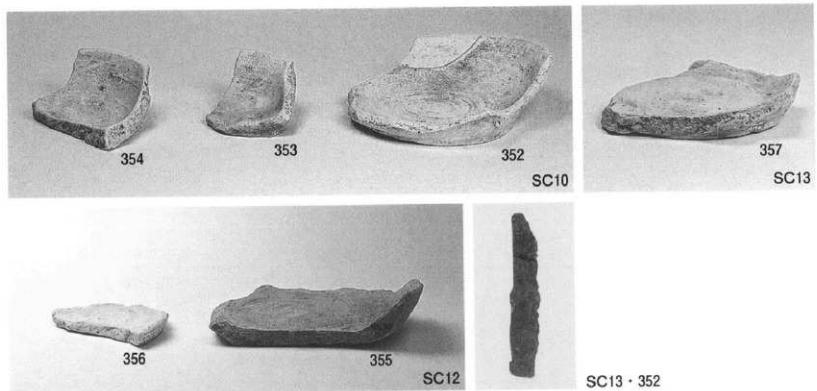
501～512は小皿である。501はA類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。口縁部から底部内面までがごく浅い。502はA類大型に分類される。底部下端が張り出し、糸痕跡が強く残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面が大きく凹む。503はB類中型に分類される。底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。504～509はB類大型に分類される。504は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。505は



第59図 SC10・12・13内出土遺物実測図 土師器・鉄製品

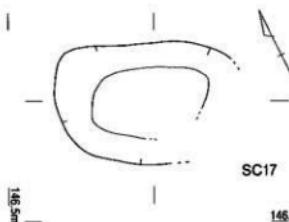
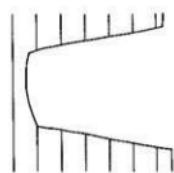
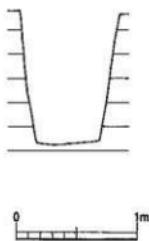
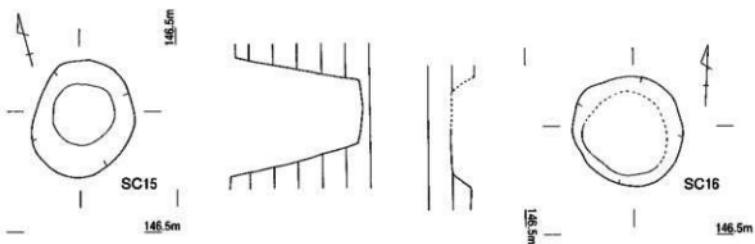
測定番号	種別	器種	出土層 遺構	調査(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
352	土師器	坪	SC10	回転ナデ	回転ナデ→ナデ	浅黄褐 (10YR8/3)	浅黄褐 (10YR8/3)	0.2~3mmの赤褐色粒 含む	12.9	8.5	3.5	回転系切 板状圧痕 ロクロ調整 一部指ナデ
353	土師器	坪	SC10	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐 (10YR8/3)	にまく黄褐 (10YR7/2)	1mm以下の粘物・砂粒	14.1	11.1	3.0	回転系切 板状圧痕 内指痕 外炭化物付着 反転復元
354	土師器	坪	SC10	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8/3)	浅黄褐 (10YR8/3)	ごく微小の粘物・砂粒	14.0	11.1	3.3	回転系切 板状圧痕 反転復元
355	土師器	坪	SC12	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	灰白 (10YR8/2)	にまく黄褐 (7YR7/4)	1mm以下の粘物・砂粒	12.2	8.1	2.8	回転系切
356	土師器	小皿	SC12	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の粘物・砂粒	7.7	6.6	1.1	回転系切 指痕有 内底ロクロ目 磨耗 反転復元
357	土師器	坪	SC13	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (7.5YR8/3)	浅黄褐 (7.5YR8/3)	3mm以下の粘物・砂粒	-	7.6	-	
358	鉄製品	刀子?	SC13	-	-	-	-	-	7.2	0.8	0.7	

第31表 SC10・12・13内出土遺物観察表 土師器・鉄製品

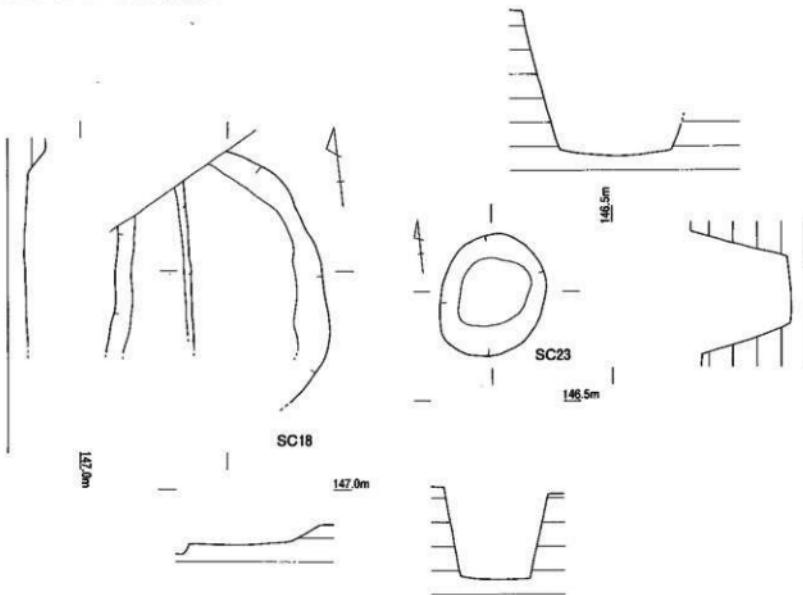


図版34 SC10・12・13内出土遺物写真 土師器・鉄製品

底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。底部内面中央が大きく凹む。**506**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。底部内面をやや平坦に調整する。**507**は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。**508**は底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成はやや堅緻である。全体的に器壁も薄く当遺構出土の小皿において異質である。**509**は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成されている。底部内面をやや平坦に調整す



第60図
SC15・16・17・18・23 実測図





SC18
遺物出土状況
(南から)



SC18
遺物出土状況
(西から)



SC18
遺物出土状況
(北から)

図版35 SC18 写真



359



360



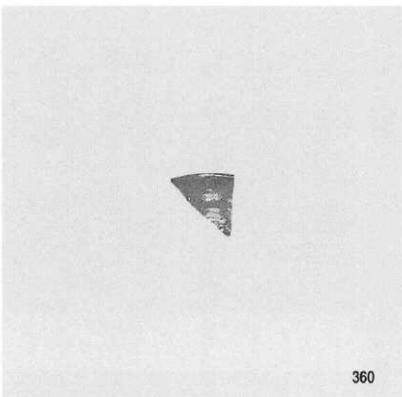
361

第61図 SC17 内出土遺物実測図 陶磁器

0 5 10cm

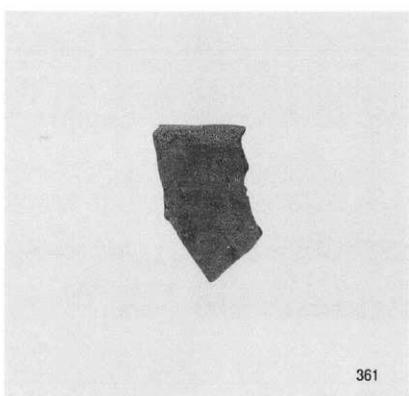
掲載番号	種別	器種	出土層 遺構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
359	青磁	碗	SC17	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系碗II-b類
360	白磁	皿	SC17	施釉	施釉	灰白色	11.5	-	-	(反転復元) 重直類
361	束縛系須恵器	鉢	SC17	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	

第32表 SC17 内出土遺物観察表 陶磁器



359

360

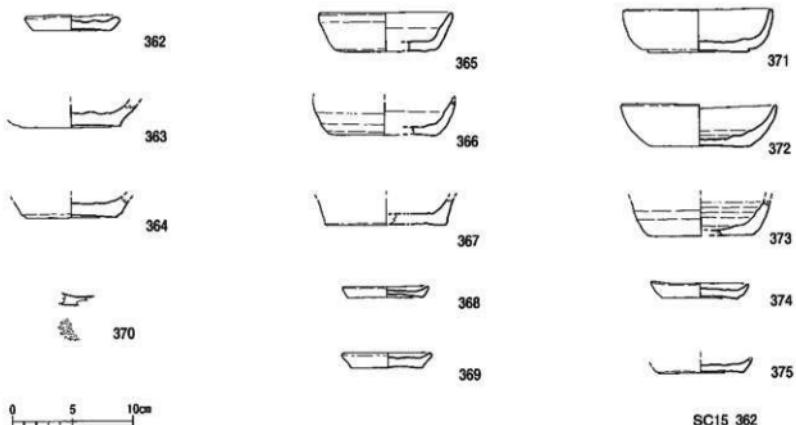


361

図版36 SC17 内出土遺物写真 陶磁器

る。510、511はC類中型に分類される。510は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部をやや薄く仕上げる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。511は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。512はC類大型に分類される。底部下端に糸痕跡が残り、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

513は滑石製石鍋底部片である。外面に多量の炭化物の付着が認められる。514は滑石製品である。断面形を方形に調整し、長軸に沿って穿孔を行う。515、516は碁石かと考えられる。515は黒色系、516



第62図 SC15・16・17・18内出土遺物実測図 土器

は白色系の色調を呈する。

17号溝状造構 (SD17: 第78~80図・第44・45表・図版48~50)

D地区、シ-22~ソ-22区において東西に走行する。東は調査区外へ消え、西側は中途で消失してしまう。北側にはSD16、南側にはSD18が隣接している。幅員は60cm程度で検出面からの深度ははっきりしない。SD16とはSD17→SD16の時期差がある。

472は白磁碗の体～底部片で、内面に描写文が施されている。碗V～匂類に相当するものである。

出土土器の総重量は9,910gであった。517は壺でC類中型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内外面に明瞭なロクロ目が残る。518は壺でC類大型に分類される。器壁が厚く、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。焼成は堅緻である。内外面に墨書きを行う。両面共に判読不能であったが、内面は外面に比べ描線が細い。

519は滑石製石鍋口縁部の転用品である。鋸を削り落とし、穿孔を行う。

18号溝状造構 (SD18: 第78~80図・第44・45表・図版48~50)

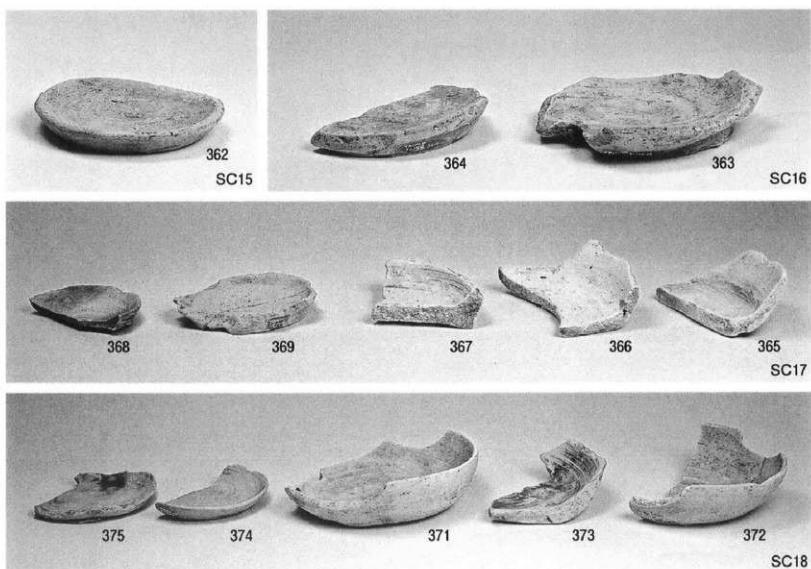
D地区、シ-22~ソ-23区において東西に走行する。東は調査区外へ消え、西側は中途で消失してしまう。北側にはSD17が隣接している。幅員は最大で70cm程度で、検出面からの深度は10cmほどである。土坑であるSC28と切り合っており、SD18→SC28の時期差があると思われる。

462~464は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に描寫文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。465は龍泉窯系青磁大壺か小盤の底部片である。大壺III類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。466は白磁皿の口縁～体部片で、口縁が外反している。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。470は白磁皿の底部片で、底面は部分的に釉が残存しており、刷毛によって施釉されたものである。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。476は東播系須恵器鉢の口縁～体部片、480、481は口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

出土土器の総重量は4,090gであった。520、521は壺でB類中型に分類される。底部下端が張り出し、体部はやや開きながら曲線的に立ち上がる。520は底部が薄い円盤状を呈する。

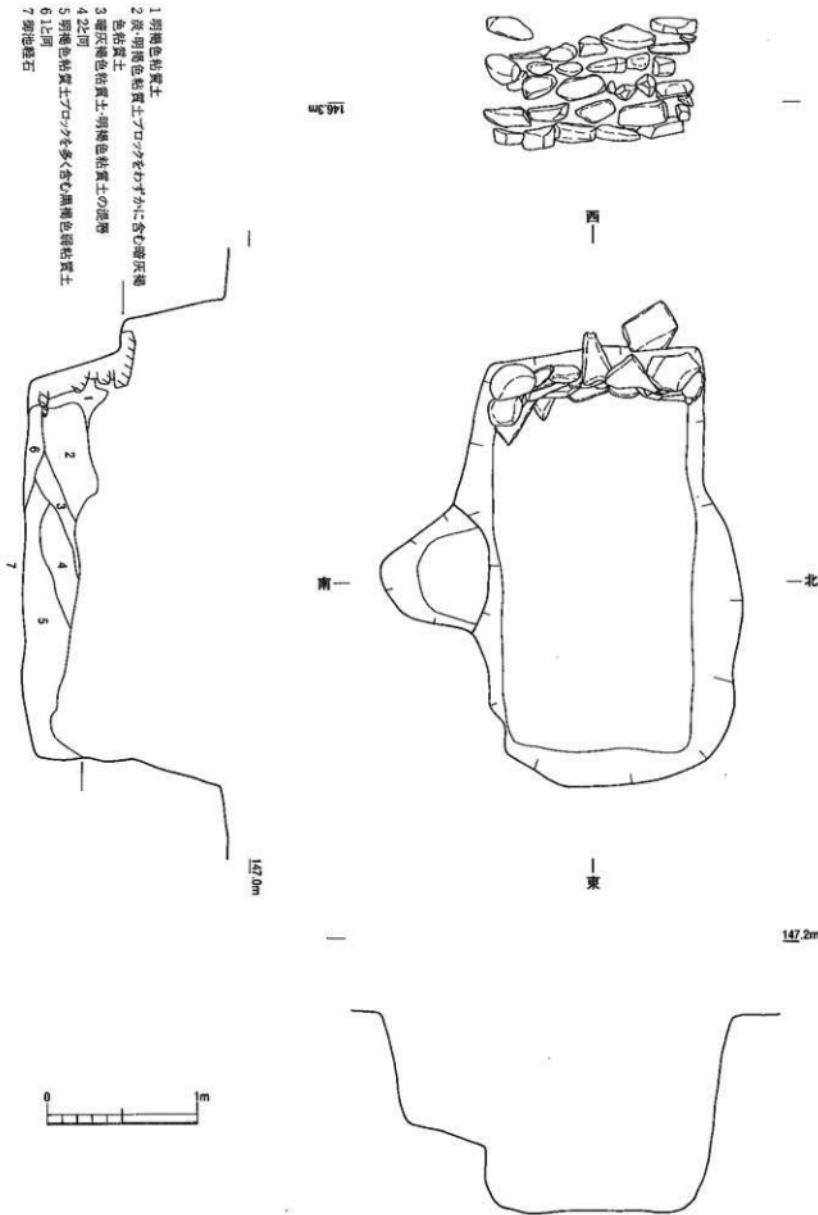
出典 番号	種別	器種	出土場 道・層	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考
362	土師器	小皿	SC15	回転ナデ	回転ナデ	にごく・褐 (7.5YR7.4)	にごく・褐 (7.5YR7.4)	2mm以下の鉱物・砂粒	8.0	6.4	1.2	回転系切 指頭直 内底ロクロ目
363	土師器	坏	SC16	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (7.5YR8.4)	浅黄褐 (7.5YR8.4)	2mm以下の鉱物・砂粒	-	8.35	-	
364	土師器	坏	SC16	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐 (7.5YR8.4)	浅黄褐 (7.5YR8.4)	2mm以下の鉱物・砂粒	-	7.5	-	
365	土師器	坏	SC17	回転ナデ→指ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	ごく微小の鉱物・砂粒	11.2	8.6	2.2	回転系切 板状圧痕 磨耗 反転復元
366	土師器	坏	SC17	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (10YR8.2)	灰白 (10YR8.2)	1mm以下の鉱物・砂粒	-	9.0	-	回転系切 板状圧痕 反転復元
367	土師器	坏	SC17	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	1mm以下の鉱物・砂粒	-	10.3	-	回転系切 板状圧痕 反転復元
368	土師器	小皿	SC17	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.4	6.4	0.9	回転系切 板状圧痕
369	土師器	小皿	SC17	回転ナデ	回転ナデ	灰白 (10YR8.2)	灰白 (10YR8.2)	1mm以下の鉱物・砂粒	7.7	6.1	1.3	回転系切 指頭直 内底ロクロ目
370	土師器	变?	SC17	タタキ目?	ナデ	浅黄褐 (2.5YR8.3)	灰白 (2.5YR8.1)	2mm以下の鉱物・砂粒	-	-	-	圧痕・タキ?
371	土師器	坏	SC18	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.4)	1mm以下の鉱物・砂粒	12.5	8.2	3.5	回転系切2 圧痕 反転復元
372	土師器	坏	SC18	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (7.5YR8.3)	1mm以下の鉱物・砂粒	13.0	8.3	3.3	回転系切 外指痕痕 反転復元
373	土師器	坏	SC18	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	ごく微小の鉱物・砂粒	-	8.8	-	回転系切 板状圧痕 内底化物付着
375	土師器	小皿	SC18	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	1mm以下の鉱物・砂粒	-	7.0	-	回転系切
376	土師器	小皿	SC18	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐 (10YR8.3)	浅黄褐 (10YR8.3)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.1	6.3	1.2	回転系切

第33表 SC15・16・17・18 内出土遺物実測図 土師器



図版37 SC15・16・17・18 内出土遺物実測図 土師器

522~531は小皿である。522はB類中型に分類される。底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。523~527はB類大型に分類される。523~526は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。524は底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。527は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整する。焼成は堅緻である。528、529はC類大型に分類される。528は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。529は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて曲線的に立ち上



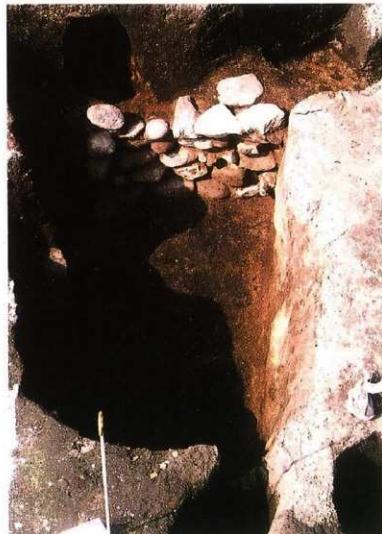
第63図 SC22 実測図



SC22 粘土状埋土確認状況
(東から：奥にSR01が見える)



SC22 粘土状埋土確認状況



SC22 完掘状況
(東から：石積除去前)



SC22 完掘状況
(東から：石積除去後)

図版38 SC22 写真



376



377



378

第64図 SC22 内出土遺物実測図 陶磁器

0 5 10cm

掘取番号	種別	器種	出土層遺構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
376	白磁	皿	SC22	施釉	施釉	灰白色	10.4	—	—	(反転復元) 圓皿類
377	白磁	皿	SC22	無釉	施釉	灰白色	—	6.4	—	(反転復元) 圓皿類
378	中国陶器	盤	SC22	施釉	無釉	褐灰色	—	—	—	

第34表 SC22 内出土遺物観察表 陶磁器



376



377

図版39 SC22 内出土遺物写真 陶磁器

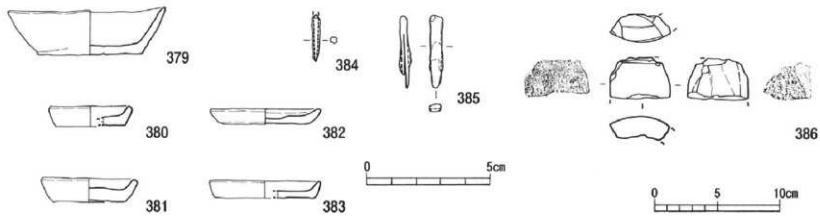
がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。530、531はC類大型に分類される。530は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し、焼成は堅緻である。531は底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。全体的に器壁が薄い。

20号溝状遺構 (SD20 : 第89・90図・第52表・図版59・60)

スーセー24~25区にあり、南側はSD21とつながっている。SD21とともにSB01の内に位置している。幅員は約60cmで、SD21と接する部分から北へ3mのびて消滅する。検出面からの深さは10cm程度である。

出土土師器の総重量は1,355gであった。772は坏底部片である。底部がやや張り出し、糸痕跡が半周している。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。773は小皿でB類大型に分類される。底部から体部にかけて薄くではあるが段差が形成される。体部は曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整する。

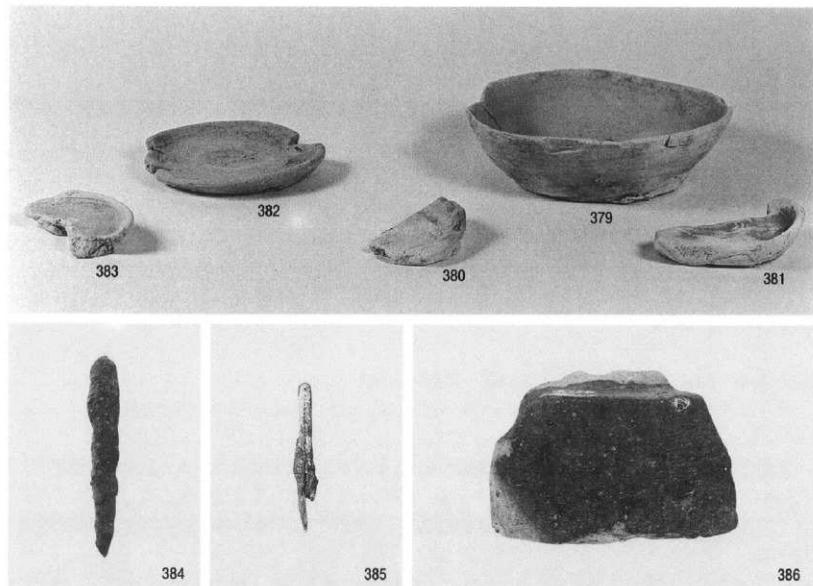
774は滑石製石鍋口縁部の転用品である。石鍋の原型は断面台形を呈する鍔を削り出すもので、外面には縦方向のノミ痕跡が広がり、内外面には炭化物が付着する。転用に際し鍔の基部に2本の穿孔を施し、破断面に



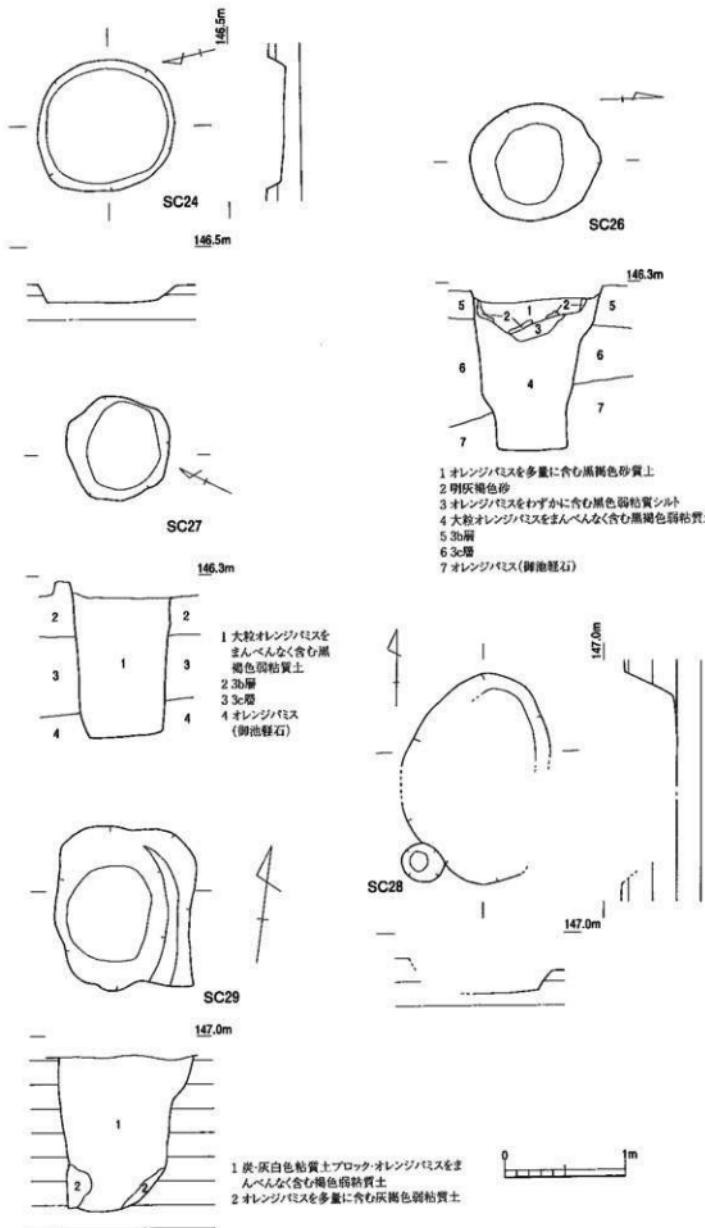
第65図 SC22 内出土遺物実測図 土師器・鉄製品・銅製品・瓦

掲載番号	種 別	器 種	出土状況	調 整(外側)	調 整(内側)	色調(外側)	色調(内側)	胎 土	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	備 考
379	土師器	環	SC22	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	ごく微小の痕跡・砂粒	12.8	8.3	3.6	回転系切 内底うすくクロロ目
380	土師器	小皿	SC22	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	2mm以下の痕跡・砂粒	6.7	5.6	1.6	回転系切 板状圧痕 反転復元
381	土師器	小皿	SC22	回転ナデ	回転ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の痕跡・砂粒	7.7	6.0	1.9	内底クロロ目 廉耗 反転復元
382	土師器	小皿	SC22	回転ナデ	回転ナデ	にぶき+擦 (7.5YR7/4)	にぶき+擦 (7.5YR7/4)	2mm以下の痕跡・砂粒	8.9	7.0	1.2	回転系切 内底クロロ目 SC28と接合
383	土師器	小皿	SC22	回転ナデ	回転ナデ→指ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の痕跡・砂粒	8.8	7.9	1.4	回転系切 廉耗 反転復元
384	鉄製品	釘	SC22	-	-	-	-	-	3.7	0.4	0.4	1.5g 頭部欠損
385	銅製品	毛抜?	SC22	-	-	-	-	-	2.9	0.5	0.3	1.4g 一部欠損
386	瓦	丸瓦	SC22	-	布目	黄白 (2.5Y5/1)	灰白 (10YR8/1)	2mm以下の痕跡・砂粒	-	-	-	

第35表 SC22 内出土遺物観察表 土師器・鉄製品・銅製品・瓦



図版40 SC22 内出土遺物写真 土師器・鉄製品・銅製品・瓦



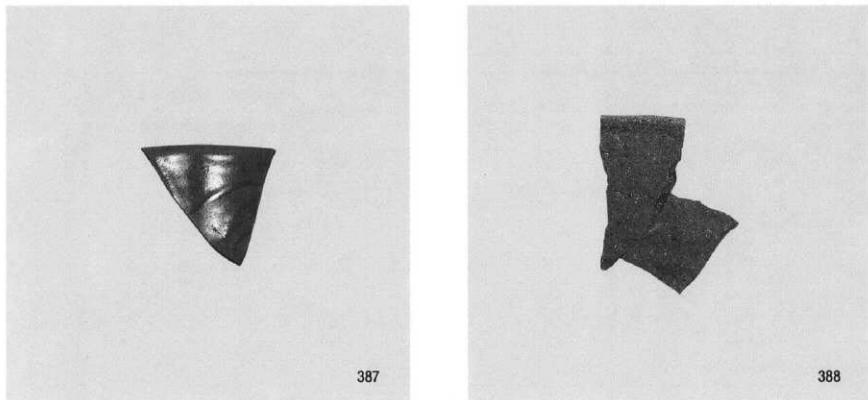
第66図 SC24・26・27・28・29 実測図



第67図 SC28 内出土遺物実測図 陶磁器

掲載番号	種別	器種	出土層 遺構	調整(外面)	調整(内面)	粘土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
387	青磁	碗	SC28	施釉	施釉	灰白色	17.1	-	-	(反転復元) 龍泉窯系碗I-2類
388	東播系須恵器	鉢	SC28	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色	-	-	-	

第36表 SC28 内出土遺物観察表 陶磁器



図版41 SC28 内出土遺物写真 陶磁器

は一部に面取りを行うなど丁寧な調整が見られる。

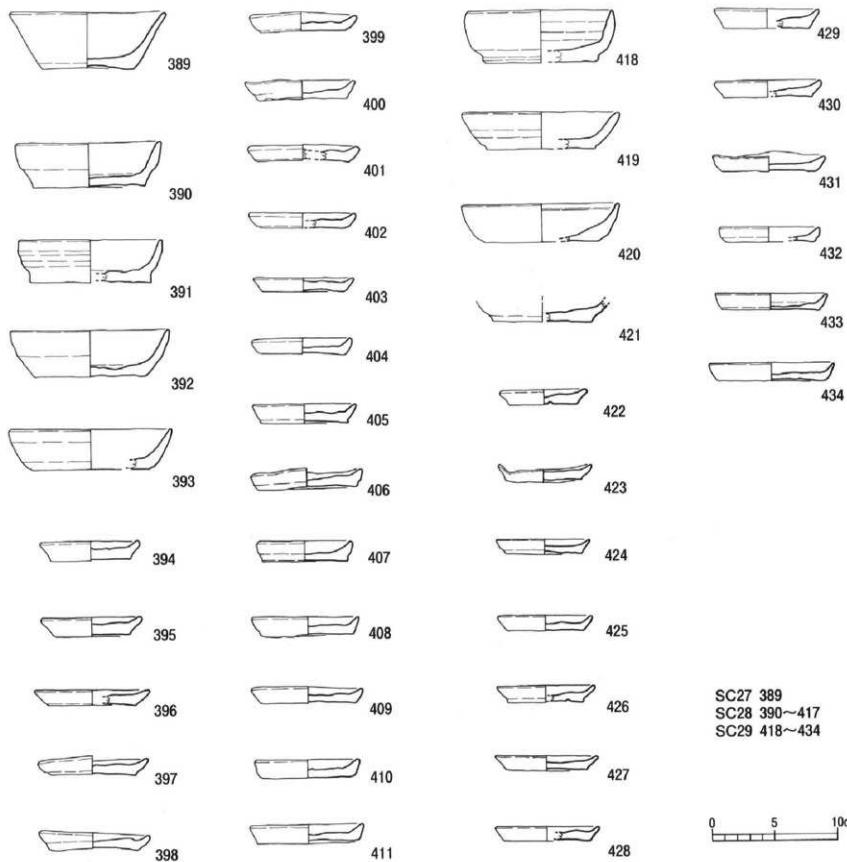
21号溝状遺構 (SD21: 第89・90図・第52表・図版59・60)

ス~セ-25区で確認した。中央部分でSD20とつながっている。SD20とともにSB01の内に位置している。幅員は60cmほどで、SD20と接する部分から東へ約5m、西へ約4mのびている。検出面からの深さは10cm程度である。SB01の柱穴と重なっており、これとの関連性もうかがえる。

出土土師器の総重量は2,220gであった。775~777は壊である。775~777は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。776は底部内面に未貫通の穿孔が確認される。777は体部外面にロクロ目が残る。

778~781は小皿である。778~780はB類中型に分類される。778は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部の器壁が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。779、780は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて780は曲線的に立ち上がる。779は口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。781はC類中型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

782は堆塗片である。口縁部から内面にかけて溶融物の付着が見られる。口縁部の一部が片口を呈する。



0 5 10cm

第68図 SC27・28・29 内出土遺物実測図 土師器・銅錢

登録番号	種別	基準	出土場所	調査(外箱)	調査(内箱)	色調(外箱)	色調(内箱)	形状	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
389	土師器	坏	SC27	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	ごく浅小の底脚-砂粒	12.6	7.25	15	回転ヘラ脚 砂ナメ
390	土師器	坏	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の底脚-砂粒	11.6	8.9	35	回転系糸 板状灰陶 外唇剥落
391	土師器	坏	SC28	圓板ナメ-盤ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	ごく浅小の底脚-砂粒	11.6	9.8	34	回転系糸 反転復元
392	土師器	坏	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の底脚-砂粒	12.6	8.9	37	回転系糸 外唇剥落 反転復元
393	土師器	坏	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の底脚-砂粒	13.0	9.3	32	回転系糸 外唇指ナメ 反転復元
394	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	2mm以下の底脚-砂粒	7.9	6.3	15	回転系糸 内底クロロ目
395	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	2mm以下の底脚-砂粒	8.1	6.2	15	回転系糸 外唇剥落 反転復元
396	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	2mm以下の底脚-砂粒	9.2	7.0	12	回転系糸 反転復元 灰化物付着
397	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ-盤ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	にこり-青 (10YR7/4)	にこり-青 (10YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.5	6.7	13	回転系糸 外唇剥落 内底クロロ目
398	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	2mm以下の底脚-砂粒	8.8	7.0	14	回転系糸 内底クロロ目 内底鉛分-灰化物付着
399	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.5	6.8	15	回転系糸 板状灰陶
400	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (10YR7/4)	にこり-青 (10YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.6	6.9	15	回転系糸 灰化物 内底クロロ目
401	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.6	7.0	11	回転系糸 直縁直 内底クロロ目
402	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.5	6.8	12	回転系糸 直縁瓶 反転復元
403	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (7.5YR7/4)	淡黄褐色 (7.5YR7/4)	2mm以下の底脚-砂粒	8.0	6.7	11	回転系糸 反転復元
404	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.0	6.8	12	回転系糸 直縁瓶
405	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	ごく浅小の底脚-砂粒	8.2	7.0	15	回転系糸 直縁瓶 反転復元
406	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.7	7.3	15	回転系糸 直縁瓶
407	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (7.5YR8/3)	淡黄褐色 (7.5YR8/3)	2mm以下の底脚-砂粒	7.6	6.8	16	回転系糸 反転復元
408	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.5	7.3	16	回転系糸 横板灰陶
409	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	ごく浅小の某物-砂粒	8.5	7.5	15	回転系糸 反転復元
410	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ	にこり-青 (7.5YR7/4)	にこり-青 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.4	7.5	15	回転系糸 内底灰化物付着 反転復元
411	土師器	小瓶	SC28	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の底脚-砂粒	9.0	8.1	15	回転系糸 回転部灰化物付着
412	銅鏡	朱雀通宝	SC28	-	-	-	-	-	2.5	0.7	0.1	30g 游跡1039年
413	銅鏡	朱雀通宝	SC28	-	-	-	-	-	2.4	0.6	0.2	39g 游跡1039年
414	銅鏡	元泰通宝	SC28	-	-	-	-	-	2.4	0.7	0.1	24g 游跡1078年
415	銅鏡	元泰通宝	SC28	-	-	-	-	-	2.6	0.6	0.1	25g 游跡1078年
416	銅鏡	?	SC28	-	-	-	-	-	2.4	0.6	0.1	23g
417	銅鏡	?	SC28	-	-	-	-	-	-	0.8	0.1	-
418	土師器	坏	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	1mm以下の底脚-砂粒	11.8	9.2	41	回転系糸 直唇 反転復元
419	土師器	坏	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	1mm以下の底脚-砂粒	12.6	8.8	29	回転系糸 外唇直頭 反転復元
420	土師器	坏	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の底脚-砂粒	12.6	9.1	30	回転 灰化物付着
421	土師器	坏	SC29	圓板ナメ-盤ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の底脚-砂粒	-	8.0	-	追加切 内底くず身付着 反転復元
422	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の底脚-砂粒	7.9	5.5	12	回転 反転復元
423	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	4mm以下の底脚-砂粒	7.4	6.0	12	回転系糸 板状灰陶
424	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	淡黄褐色 (7.5YR8/4)	ごく浅小の底脚-砂粒	7.4	6.1	12	回転系糸 外唇剥落
425	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の底脚-砂粒	7.5	6.2	12	回転系糸 反転復元
426	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	ごく浅小の底脚-砂粒	7.8	6.0	14	回転系糸 直縁直 壁くず身付着
427	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	ごく浅小の底脚-砂粒	8.2	6.1	12	回転系糸 反転復元
428	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/4)	淡黄褐色 (10YR8/4)	ごく浅小の底脚-砂粒	8.2	6.9	12	回転系糸 外唇剥落 反転復元
429	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ-盤ナメ	淡黄褐色 (10YR8/3)	淡黄褐色 (10YR8/3)	2mm以下の底脚-砂粒	8.4	7.0	12	回転系糸 外唇剥落 反転復元
430	土師器	小瓶	SC29	圓板ナメ	圓板ナメ	灰 (7.5YR7/4)	灰 (7.5YR7/4)	1mm以下の底脚-砂粒	8.6	7.0	14	回転系糸 反転復元

第37表 SC27・28・29内出土遺物観察表 土器類・銅鏡

出典番号	種別	器種	出土位置	調査(外側)	調査(内側)	色調(外側)	色調(内側)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
431	土師壺	小皿	SC29	四輪ナマダ	四輪ナマダ	赤褐色 (HGYR8/3)	赤褐色 (HGYR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	87	72	14	四輪ナマダ
432	土師壺	小皿	SC29	四輪ナマダ	四輪ナマダ	赤褐色 (HGYR8/3)	赤褐色 (HGYR8/3)	4mm以上の粘土-砂粒	80	71	12	四輪ナマダ 瓷輪 反転復元
433	土師壺	小皿	SC29	四輪ナマダ	四輪ナマダ	赤褐色 (HGYR8/3)	赤褐色 (HGYR8/3)	ごく細かい粘土-砂粒	90	79	13	四輪ナマダ 反転復元 内底にクロロ目
434	土師壺	小皿	SC29	四輪ナマダ	四輪ナマダ	赤褐色 (HGYR8/3)	赤褐色 (HGYR8/3)	ごく細かい粘土-砂粒	100	86	14	四輪ナマダ 四輪復元

第38表 SC29 内出土遺物観察表 土師器

22・23号溝状遺構 (SD22・23: 第81~83・85~87図・第46~52表・図版52・54~58)

D地区、グリッド: ハーフ-24~31区で確認している。南北に走行する本遺跡において比較的大きなタイプの溝状遺構である。ともに上端の径は推定で約4m、箱状を呈する。22の検出面からの最大深度は2mで、底面は畠堀らしき状態を呈する部分もあった。23の検出面からの最大深度は1.8mであった。東側に隣接するSD23と切り合っており。土層断面からはSD22~SD23の時期差を見出すことができる。

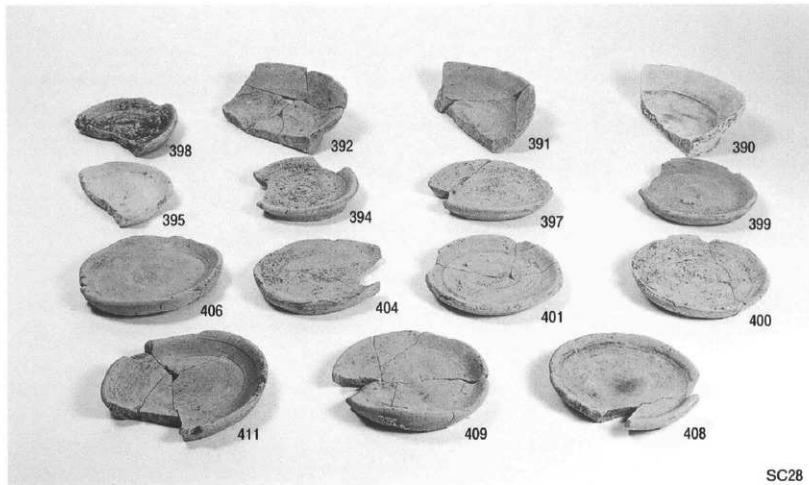
SD22出土遺物 533は龍泉窯系青磁碗の口~体部片で、外側に片彫蓮弁文が施されている。碗II-a類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。534は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外側に錦辻弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。538、539は龍泉窯系青磁碗の体部片で、外側に錦辻弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。541は白磁壺の底部片である。四耳壺III-3類に相当すると推測され、13世紀末から14世紀にかけてのものと思われる。551は東播系須恵器鉢の口縁~体部片で、口唇部外側に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。553は瓦質土器鍋の口~胴部片で、外側には貼付突帯がめぐり、著しいスヌの付着がみられる。554は瓦質土器擂鉢の口縁部片である。561は常滑窯か壺の胴部片で、内側に輪積痕をのこしている。563は国造陶器片口鉢の口縁部片で、鉢の注ぎ口にあたり外側に指彫压痕をのこしており、これは器本体に注ぎ口を貼り合わせた際の密着痕である。

出土土師器の総重量は6,905gであった。601~607は壺である。601はB類小型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は直線的に立ち上がる。602~604はB類中型に分類される。602は底部下端が若干張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。603は底部下端がやや張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部はやや曲線的に立ち上がる。604は底部下端が若干張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。605はB類小型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。606はC類小型に分類される。体部がやや曲線的に立ち上がる。607はC類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。

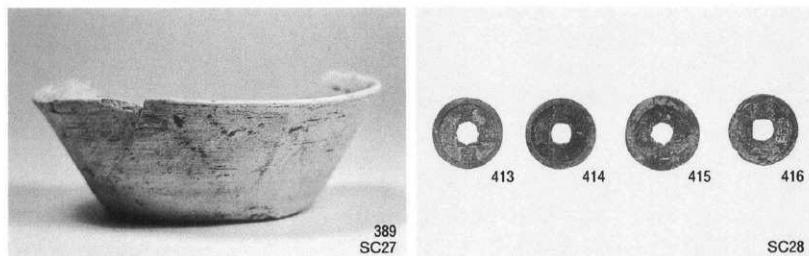
608~623は小皿である。608~610はA類大型に分類される。608は器高が22.2cmと高い。底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて開きながら直線的に立ち上がり、体部から口縁部にかけての器壁を薄く仕上げる。609、610は底部下端がやや張り出す。底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がり、体部から口縁部にかけての器壁を薄く仕上げる。611~616はB類中型に分類される。611~615は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。612は口縁部を薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。613は底部下端に糸痕跡が残る。口縁部を薄く仕上げる。614は底面中央には亀裂が見られる。615は底部から体部にかけての一部に段差が形成されている。616は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。体部外面にはロクロ目が残る。617~620はB類大型に分類される。617は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。底面中央には亀裂が見られる。618は底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。619、620は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。621はC類中型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、一部には段差が形成される。622、623はC類大型に分類される。底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。622は口縁部を薄く仕上げ、焼成は堅微である。

624はふいご羽口先端部片である。鉄滓の付着が見られる。通風孔径は推定2.5cmを測る。

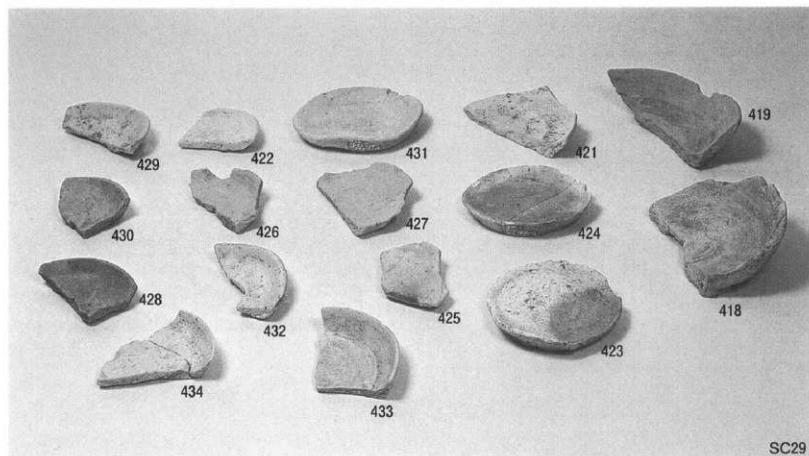
SD23出土遺物 535は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、内側に文様が施されている。碗I-2類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。540は龍泉窯系青磁碗の体~底部片である。碗I-1類に相当し12世



SC28

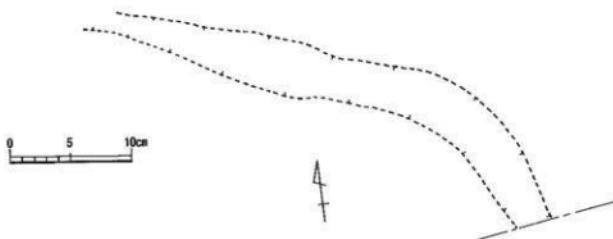


SC28



SC29

図版42 SC27・28・29 内出土遺物写真 土師器・銅錢



第69図 SD06 実測図

紀中頃から後半にかけてのものである。549は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられ、内面は剥落している。550は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられ、口唇部は著しく欠損しており、内面は剥落している。558は常滑片口鉢の口縁部片である。6期に相当し13世紀代のもので、高台をもたないタイプと思われる。562は常滑壺の底部片で、内面の一部に自然釉がみられる。

出土土器器の総重量は30.295 g であった。625～640は坏である。625はA類小型に分類される。625は器高が4.1cmと高い。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。体部外面にはロクロ目が残る。626～630はB類中型に分類される。626は底部が円盤状を呈し、体部は曲線的に立ち上がる。627は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。628～630は底部下端がやや張り出し、底部が薄い円盤状を呈し、体部はやや曲線的に立ち上がる。631～635はB類大型に分類される。631は器高が4.3cmと高い。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。632、633は底部下端が張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部はやや曲線的に立ち上がる。634は底部下端の一部がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。635は外面における底部と体部の境は不明瞭で体部は一旦聞いた後、屈曲し急な角度で直線的に立ち上がる。636、637はC類小型に分類される。636は底部下端が大きく張り出し、体部は直線的に立ち上がる。焼成は堅緻である。637は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。内面における底部と胴部の境が不明瞭である。638、639はC類中型に分類される。638、639は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。639は器高が2.3cmと低い。焼成は堅緻である。640はC類大型に分類される。640は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。

641～655は小皿である。641～647はB類中型に分類される。641、642は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。641は口縁部をやや薄く仕上げ、底部内面中央が大きく凹む。643は底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。644～646は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。644、645は口縁部から底部内面までが浅く、644は器高が1.1cmと低い。646は底部内面中央が大きく凹む。647は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。648～652はB類大型に分類される。648は底部下端が大きく張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。焼成は堅緻である。649～651は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。649は焼成がやや堅緻である。652は底部から体部にかけて段差が形成される。653～655はC類大型に分類される。653～655は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。654は口縁部から底部内面までが極端に浅い。655は口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整し器壁がごく薄い。焼成は堅緻である。

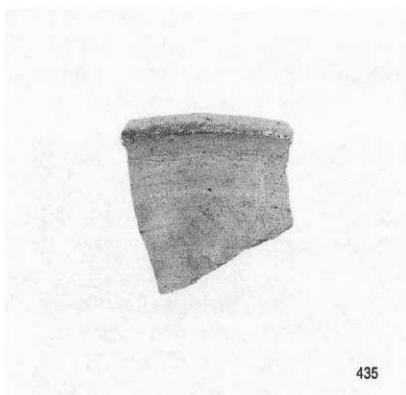
656は石鍋口縁部である。断面台形を呈する鋸を削りだす。胴部にはノミ痕跡が残る。口縁部内外に多量の炭化物の付着が見られる。657は火鉢の脚部である。658は坩堝片である。口縁部から内面にかけて溶融物、鉄滓、銅滓の附着が見られる。659、660は土鍤である。659は先端部を欠損する。659は長軸約3.3cmと短い。



第70図 SD06 内出土遺物実測図 陶磁器

掲載番号	種別	器種	出土層構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
435	東播系須恵器	鉢	SD06	同軸ナデ	同軸ナデ	褐灰色	30.4	-	-	(反転復元)

第39表 SD06 内出土遺物観察表 陶磁器

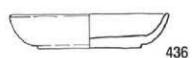


図版43 SD06 内出土遺物写真 陶磁器

SD22・23一括出土遺物 543は中国陶器盤の底部片で、内面に釉下顔料としてベンガラ（酸化第二鉄）を用い、文様が施描されている。文様が焦茶色に発色していることから、還元焼成によるものと推察する。盤I-2類に相当するものである。544は中国陶器盤の体部片で、外面に釉の境目がみられる。盤I-2類に相当するものである。545、546は東播系須恵器鉢の口～底部片、548は口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられ、外面にロクロ目を明瞭に残している。552は東播系須恵器鉢の体～底部片である。556は瓦質土器擂鉢の口～体部片で内・外面ともに焼成不良である。559は常滑壺の口縁部片である。560は常滑壺の肩～胴部片で、内面に輪積痕および指頭痕を残している。

出土土師器の総重量は27,460 gであった。鉄分の付着が見られるものが多い。661～674は坏である。661、662はA類大型に分類される。661、662は底部下端がやや張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部はやや曲線的に立ち上がり、外面には明瞭なロクロ目が残る。663はB類小型に分類される。底部下端が若干張り出し、体部は一旦屈曲した後、やや曲線的に立ち上がる。664はB類中型に分類される。底部中央付近の器壁が非常に薄くなる。底部と体部の境が不明瞭で、体部は直線的に立ち上がる。665はB類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、体部は曲線的に開きながら立ち上がる。666～669はC類小型に分類される。666は底部下端がやや張り出し、体部は直線的に立ち上がる。667は底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。内面の器壁表面に剥落が見られる。668は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。669は底部下端の一部が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。670～673はC類中型に分類される。いずれも灰白色系の色調を呈する。670～672は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。673は底部と体部との境は不明瞭で、体部は直線的に立ち上がる。674はC類大型に分類される。底部下端の一部が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。

675～731は小皿である。675はA類小型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部から底部内面までがごく浅い。676、677はA類中型に分類される。676は底部下端が若干張り出す。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。底部が厚く、口縁部から底部内面までがやや浅い。677は底部下端が張り出し、糸痕跡が半周する。底部から体部にかけて大きく開きながら立ち上がり、



436



438



440



437



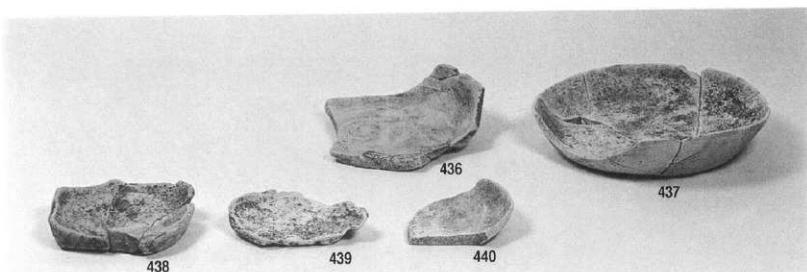
439



第71図 SD06 内出土遺物実測図 土師器

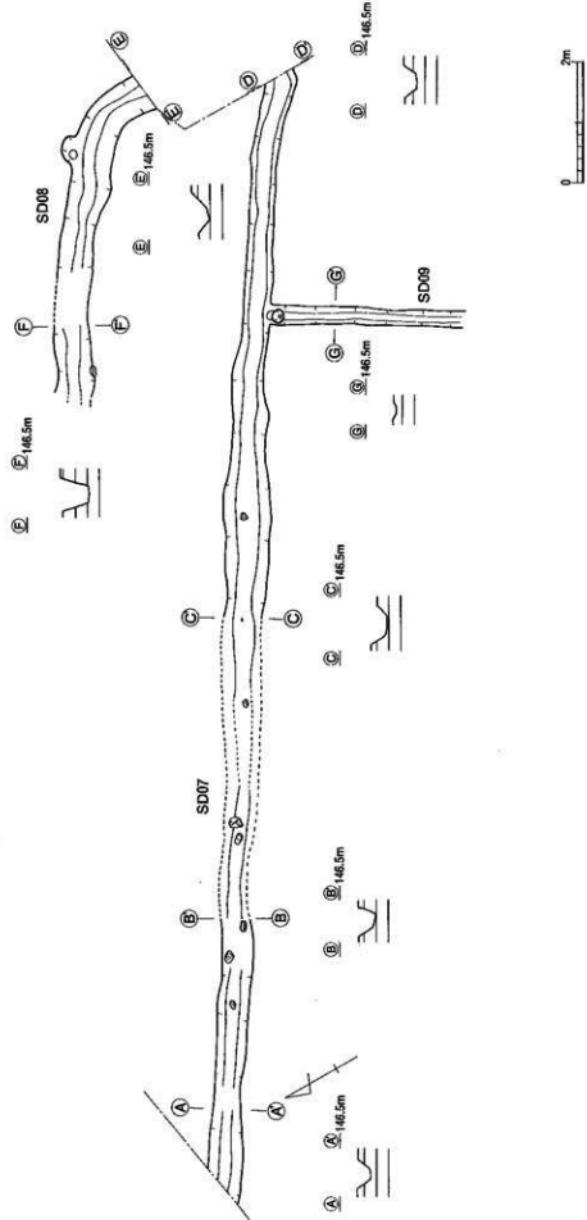
出典番号	種別	器種	出土層 道	調整(外面)	調整(内面)	色調(外面)	色調(内面)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考
436	土師器	环	SD06	回転ナデ	回転ナデ+指ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	ごく微小の鉢物・砂粒	12.4	8.4	2.8	回転系切 板状圧痕 反転復元
437	土師器	环	SD06	回転ナデ	回転ナデ+指ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	ごく微小の鉢物・砂粒	12.6	9.3	2.8	回転系切 板状圧痕 外指痕重 内斜分付有
438	土師器	小皿	SD06	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1mm以下の鉢物・砂粒	7.6	6.2	1.7	回転系切 扇状圧痕 内外斜分付 着 反転復元
439	土師器	小皿	SD06	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	1mm以下の鉢物・砂粒	7.6	5.8	1.3	回転系切 内底ロクロ目 内外斜分 付有 磨耗 反転復元
440	土師器	小皿	SD06	回転ナデ	回転ナデ+指ナデ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	1mm以下の鉢物・砂粒	8.4	7.0	1.5	回転系切 ナデ 反転復元

第40表 SD06 内出土遺物観察表 土師器

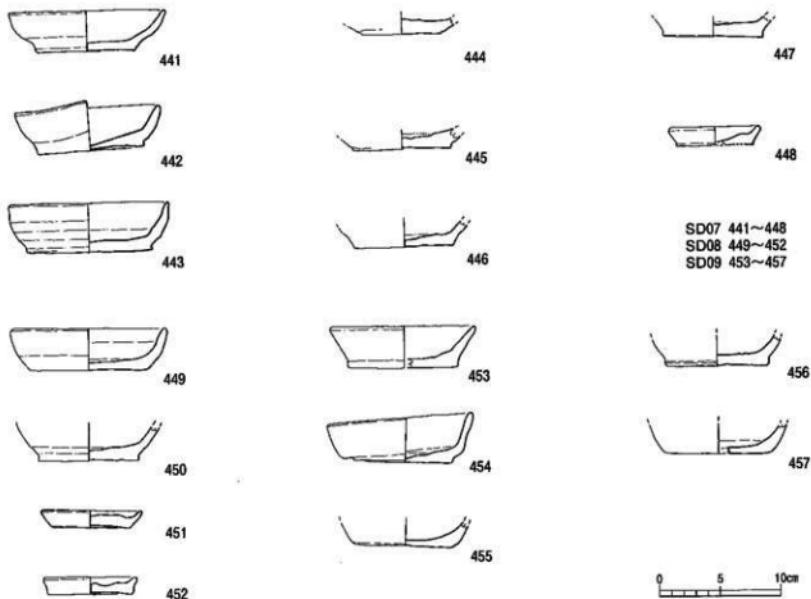


図版44 SD06 内出土遺物写真 土師器

口縁部を薄く仕上げる。678~683はA類大型に分類される。678、679は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。678は口縁部を厚く仕上げる。680は底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。681~683は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。681は口縁部をやや薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。682、683は底部下端がやや張り出し、683は焼成が堅緻である。684~710はB類中型に分類される。684、685は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。685は底部下端に糸痕跡が半周する。口縁部を薄く仕上げ、底部内面中央が大きく凹む。686は底部が張り出し、底部から体部にかけて段差が形成される。口縁部から底部内面までが浅い。687は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。688は器高が1.1cmとやや低い。底部から体部にかけて段差が形成され、体部は大きく開く。口縁部を薄く仕上げる。689は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。690は底部下端が張り出す。底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。口縁部から底部内面までが浅い。691は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。692は底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて一旦屈曲し、体部は大きく開く。693は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。694は底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をごく薄く仕上げる。695、696は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。696は口縁部を薄く仕上げる。底部が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅くなる。697は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。



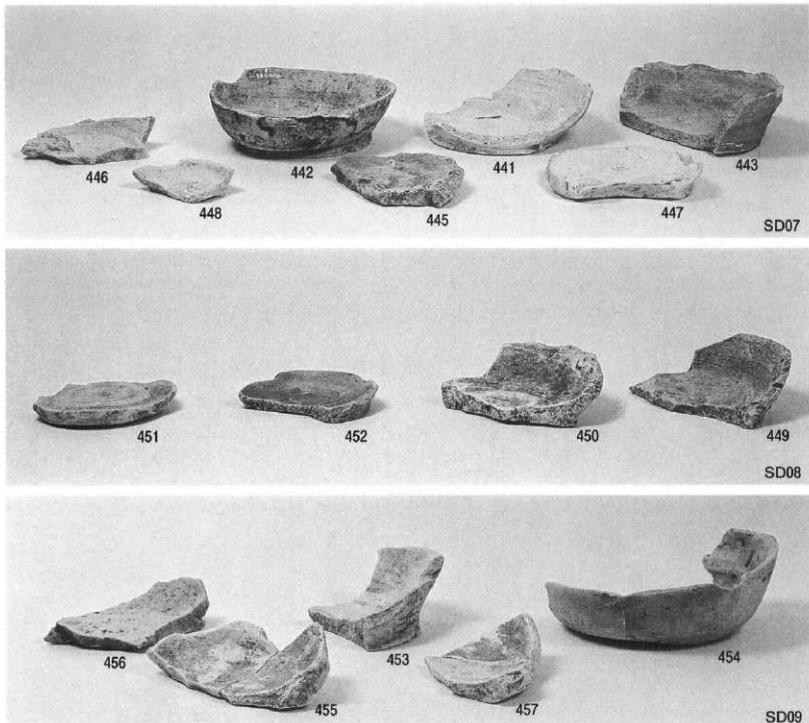
第72図 SD07・08・09 実測図



第73図 SD07・08・09 内出土遺物実測図 土器

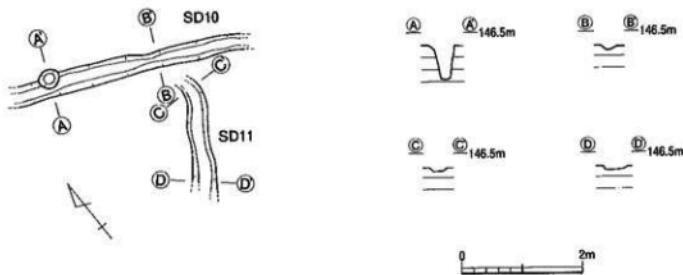
出報番号	施設名	器種	出土層	出土地点	調査(外観)	調査(内面)	色調(外面)	色調(内面)	底土	口径(cm)	底径(cm)	壁厚(cm)	備考
441	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	白輪ナメ (10YR8/4)	浅青碧 (10YB2/4)	ごく微小の紅褐色-砂粒	13.1	8.4	3.4	圓輪赤切 板状灰質 外側復元	
442	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	白輪ナメ (10YR8/4)	浅青碧 (10YB2/4)	1mm以下の紅褐色-砂粒	12.1	8.9	3.7	圓輪赤切 板状灰質 外側復元	
443	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	白輪ナメ (10YR2/3)	浅青碧 (10YB2/3)	ごく微小の紅褐色-砂粒	13.4	10.4	4.0	圓輪赤切 板状灰質	
444	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YB2/3)	1mm以下の紅褐色-砂粒	-	7.2	-	圓輪赤切 細銀質 反転復元	
445	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	にれ-白 (10YR7/2)	にれ-白 (10YR7/2)	1mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.2	-	圓輪赤切 反転復元	
446	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	白色 (10YR8/2)	白色 (10YR8/2)	1mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.3	-	圓輪赤切 板状灰質 反転復元	
447	土器器	环	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.4	-	圓輪赤切 工具痕 内底クロロ	
448	土器器	小皿	SD07	圓輪ナメ	圓輪ナメ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	ごく微小の紅褐色-砂粒	7.7	6.5	1.6	圓輪赤切 細銀質	
449	土器器	环	SD08	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/2)	浅青碧 (10YR8/2)	2mm以下の紅褐色-砂粒	13.1	9.8	3.5	圓輪赤切 板状灰質 反転復元	
450	土器器	环	SD08	圓輪ナメ→胎ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/4)	浅青碧 (10YR8/4)	3mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.4	-	圓輪赤切 反転復元	
451	土器器	小皿	SD08	圓輪ナメ	圓輪ナメ	浅青碧 (10YR8/2)	浅青碧 (10YR8/2)	3mm以下の紅褐色-砂粒	8.4	6.6	1.4	圓輪赤切 細銀質	
452	土器器	小皿	SD08	圓輪ナメ	圓輪ナメ	にれ-白 (10YR7/4)	にれ-白 (10YR7/4)	1mm以下の紅褐色-砂粒	7.8	7.2	1.4	圓輪赤切 内底クロロ	
453	土器器	环	SD09	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YR8/3)	1mm以下の紅褐色-砂粒	12.2	8.2	3.5	圓輪赤切 細銀質 反転復元	
454	土器器	环	SD09	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YR8/3)	ごく微小の紅褐色-砂粒	12.5	8.3	4.6	圓輪赤切 有狀灰質 細銀質 外側復元	
455	土器器	环	SD09	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YR8/3)	1mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.4	-	圓輪赤切 反転復元	
456	土器器	环	SD09	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YR8/3)	1mm以下の紅褐色-砂粒	-	8.5	-	圓輪赤切 反転復元	
457	土器器	环	SD09	圓輪ナメ	圓輪ナメ→胎ナメ	浅青碧 (10YR8/3)	浅青碧 (10YR8/3)	ごく微小の紅褐色-砂粒	-	9.0	-	素朴 反転復元	

第41表 SD07・08・09 内出土遺物観察表 土器



図版45 SD07・08・09 内出土遺物写真 土器

698は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部から底部内面までが浅い。699は底部下端が若干張り出し、糸痕跡が大きく残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、外面にはロク口目が残る。700は底部から体部にかけて一旦屈曲し、体部は大きく開く。口縁部を薄く仕上げる。701～705は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。703は底部下端に糸痕跡が半周する。706、707は底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて一旦緩やかに屈曲し、体部が大きく開く。706は底部が厚く、口縁部から底部内面までが浅く、707は口縁部を薄く仕上げる。708～710は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。708は口縁部を薄く仕上げる。709は底部中央に底面まで貫通する亀裂が生じている。710は口縁部を薄く仕上げ、底部内面中央が大きく凹み、器壁がごく薄い。711～724はB類大型に分類される。711は底部から体部にかけて段差が形成される。712～715は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。713は口縁部を薄く仕上げる。口縁部から底部内面までがごく浅い。715は底部下端に糸痕跡が残る。716、717は底部から体部にかけて薄く段差が形成される。717は底部内面を平坦に調整する。718～721は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。719、720は底部下端が若干張り出し、底部内面を平坦に調整する。720は口縁部を薄く仕上げる。722は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。底部内面を平坦に調整する。723は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。724は底部から体部にかけて段差が形成され、口縁部を薄く仕上げる。725～727はC類中型に分類される。725～727は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。726、727は底部内面中央が大きく凹み、器壁がごく薄い。728～730はC類大型に分類される。728、729は底部下端若干張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。730は



第74図 SD10・11 実測図

底部から体部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底部内面を平坦に調整する。731はB類小型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部を薄く仕上げる。底面に墨書きを施す。判読不明である。

732は砥石である。733は埴堀片である。口縁部から内面にかけて溶融物の付着が見られる。

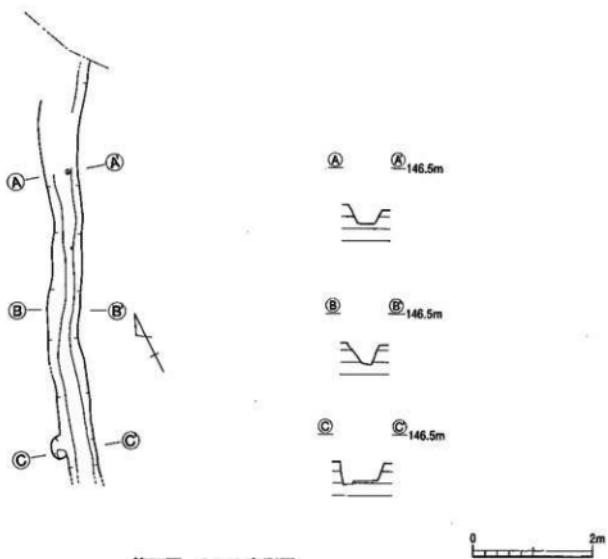
24号 滅状構造 (SD24 : 第91~93図・第54・55表・図版61・62)

セヘソ-24区にある。SB01とSB05の間に位置する。東西に延びており、東側はそのまま調査区外へ走っている。幅員は1mほど、検出面からの深さは10cm程度である。

783は龍泉窯系青磁碗の体部片で、外面に鑄蓮弁文が施されている。碗II-2 b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。784は白磁皿の口縁～底部片で、底面は刷毛によって施釉されている。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。785は白磁皿の口縁部片である。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。786は白磁碗の体～底部片で、見込部は釉が剥き取られており、いわゆる見込釉ハギである。787は東播系須恵器鉢の口縁～体部片で、口唇部外間に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。788は瓦質土器の口縁部片で外面は焼成不良気味であり、内面は焼成不良か二次焼成を受けている。器種は火舎と思われる。

出土土器の総重量は11,015gであった。789～797は壊である。789～792はB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。790は焼成が堅敏である。791は器高が29cmとやや低く、器壁が全体的に薄い。793、794はB類大型に分類される。共に焼成は堅敏である。793は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。794は底部下端が張り出し、底部は薄い円盤状を呈する。体部は大きく開く。795はC類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。796はC類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。797は底部～体部片である。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。

798～813は小皿である。798～802はB類中型に分類される。798は底部下端が張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。799～801は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。800は底部下端の張り出しが大きく、糸痕跡が残る。口縁部を薄く仕上げる。802は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面を平坦に調整する。803～807はB類大型に分類される。803は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。804は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。805、806は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。806は底部下端に沈線が巡る。口縁部をやや薄く仕上げる。807は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけてやや外反しながら立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。808～810はC類中型に分類される。808は口縁部をやや薄く仕上げる。810は焼成が堅敏である。811～813はC類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。811、812は糸切離しの中心が底面中央付近に認められ、焼成がや



第75図 SD12 実測図

や堅緻である。813は内面における底部と体部との境が不明瞭である。

814は堆塙片である。口縁部から内面にかけて溶融物の付着が見られる。

25号溝状遺構 (SD25 : 第94~96図・第56・57表・図版63・64)

D地区、グリッド：セ～ソ-27～28区で検出した。北西-南東方向に走向し、東南側は丸くなつて終わる。上端は径が1m前後あるが、下端は全くわからなかつた。

815は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に箋蓮弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。816は青白磁梅瓶か壺の体部片で、外面に柳描文らしき文様が施描されている。817は瓦質土器擂鉢の口縁～底部片で、外面に指頭圧痕をのこし、内面には5条1単位の櫛目がみられ、底面は著しく剥落している。

出土土師器の総重量は3,755gであった。818～825は壊である。818、819はB類中型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。818は外面にはロクロ目が残る。819は焼成が堅緻である。820は体部片である。821～825は底部～体部片である。いずれも底部下端がやや張り出す。

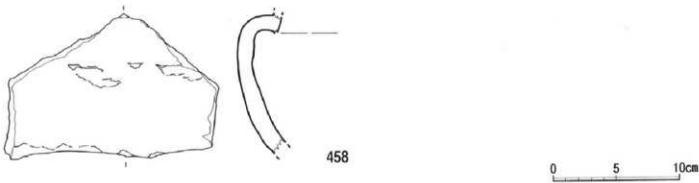
826は小皿でB類大型に分類される。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

827は鉄製品である。上部2/3程度が板状となり、下部1/3程度が角柱状を呈する。鑄の可能性が考えられる。

26号溝状遺構 (SD26 : 第97~99図・第58・59表・図版65・66)

D地区、ヌ～ネ-29～31区にある。南北方向への走行をみせるが、ともに中途で消失している。南側へいくにつれて幅員が広がっており、径は北端で50cm、南端で1.1mである。D-D'の側面では、やや薬研状を呈していることがうかがえる。南側を東西へ走行するSD13とは、SD13→SD26の時期差がある。

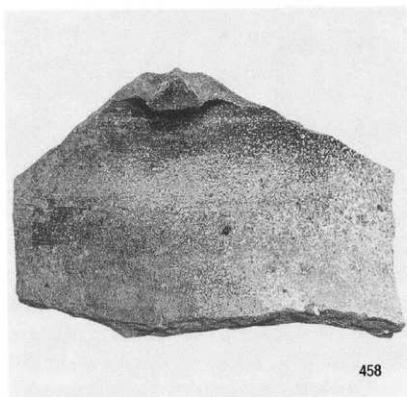
828は龍泉窯系青磁碗の体～底部片で、見込に文様が施されている。碗I-2～4類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。829は龍泉窯系青磁碗の体部片で内面に文様が施されている。碗I-2類に相当し、12世紀中頃から後半にかけてのものである。830は白磁皿の口縁～体部片でやや外反している。皿IX類



第76図 SD12 内出土遺物実測図 陶磁器

査査番号	種別	器種	出土層構	調整(外面)	調整(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
458	常滑	壺	SD12	回転ナマ	回転ナマ	灰黄褐色	-	-	-	5期 外面に指痕をのこす

第42表 SD12 内出土遺物観察表 陶磁器



図版46 SD12 内出土遺物写真 陶磁器

に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。

出土土器の総量は6,685 gであった。浅黄橙色系の色調が主となる。831~836は壺である。831~833はB類中型に分類される。831は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。832は底部下端が張り出し、体部はやや曲線的に立ち上がる。833は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、器形の歪みにより屈曲する部分も見られる。834はB類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。835はC類小型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。836はC類大型に分類される。底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。

837~839は小皿である。837はB類中型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がるが、段差が生じている部分もある。838はB類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。口縁部を薄く、底部内面を平坦に仕上げる。焼成は堅緻である。839はC類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。底部内面中央が大きく凹む。

840、841は土錘である。840は長軸7.3cmと大型である。841は両端を欠損する。

27号溝状遺構 (SD27 : 第100図)

D地区、ネーハー26区において東西に走行する。西側は消失し、東側は丸く終息している。幅員は80cmほどで、検出面からの深度は10cmほどしかない。

31号溝状遺構 (SD31 : 第81・87・88図・第52表・図版53・58)

D地区、ハ-24区からハ-28区にかけて南北に走行する溝状遺構である。上端の径は80cm、検出面からの深度は60cmを測る。南へ行くとSD22・23と切り合い、消失してしまうが、さらに南のハ-31区で再び確認できた。B-B'の土層断面ではSD31→SD22→SD23の時期差がみられることから、時期的にはSD22・23より以前



459

0 5 10cm

第77図 SD12 内出土遺物実測図 土師器

掲載番号	種別	器種	出土位置	調査(外側)	調整(内面)	色調(外側)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
459	土師器	小皿	SD12	回転ナデ	回転ナデ→捺ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	ごく微小の鉱物・砂粒	8.0	6.3	2.5	回転糸切 反転復元

第43表 SD12 内出土遺物観察表 土師器



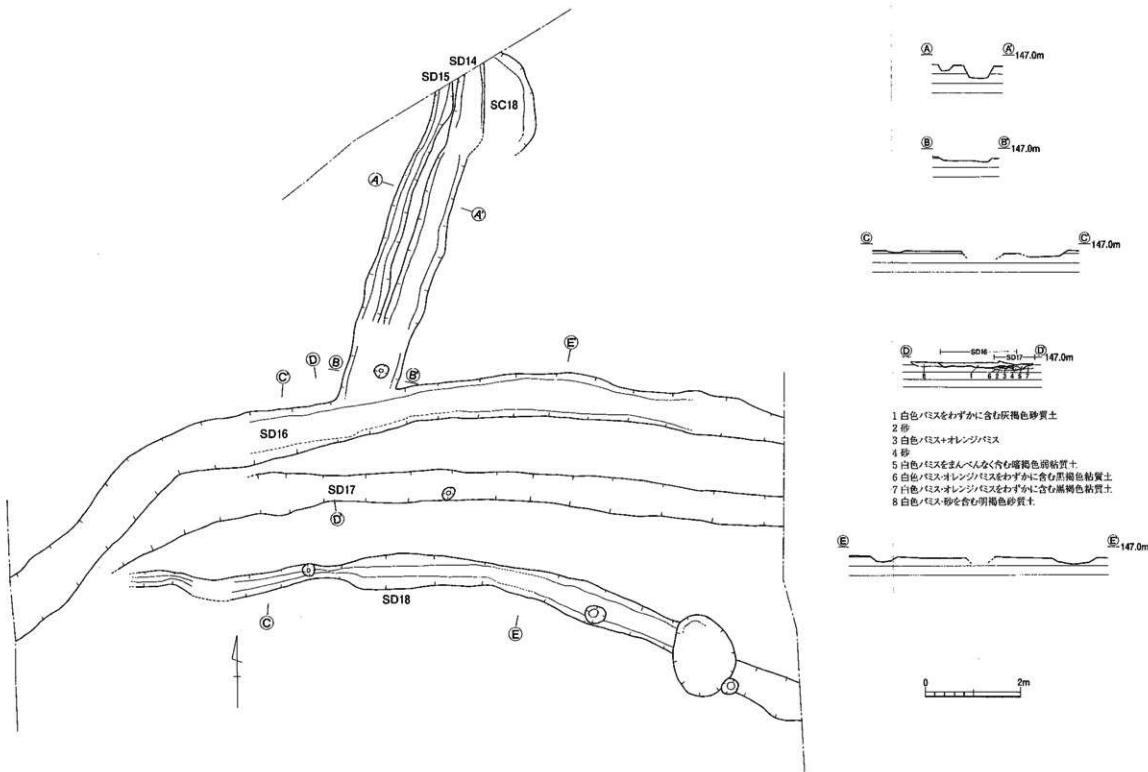
459

図版47 SD12 内出土遺物写真 土師器

のものであろう。南端はハ-32区で検出している。

出土土師器の総重量は11,410gであった。734~759は坏である。734、735はA類大型に分類される。734、735は回転ヘラ切離しで、底部下端が張り出す。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。橙色系の色調を呈する。736~742はB類中型に分類される。736、737は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。736は器形の歪みにより体部の一部に屈曲が生じている。737は底部下端に糸痕跡が残る。738は底部下端がやや張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。739~742は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。741は器形が大きく歪む。743~749はC類小型に分類される。743は底部下端が大きく張り出し、体部は直線的に立ち上がる。全体的に器壁が厚い。744は底部下端が張り出し、体部は曲線的に立ち上がる。745~747は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。745は体部外面にロクロ目が明瞭に残る。746は底部から体部にかけての一部に段差が見られる。748は底部下端が若干張り出し、体部は一旦開いた後、屈曲し急な角度で直線的に立ち上がる。749は器高が3.0cmとやや低く、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。750~758はC類中型に分類される。750は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部を厚く仕上げる。751は底部下端が大きく張り出し、底部は円盤状を呈する。体部は一旦開いた後、屈曲し立ち上がるが、器形の歪みが大きく一部は直線的に立ち上がる部分もある。752、753は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。754は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。755は底部下端が大きく張り出す。体部は一旦開いた後、屈曲し立ち上がるが、器形の歪みが大きく一部は直線的に立ち上がる部分もある。756、757は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。758は底部下端に糸痕跡が残り、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。759は底部~体部片である。底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。

760~768は小皿である。760、761はB類中型に分類される。760、761は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部はやや薄く仕上げる。760は底部内面中央が大きく凹む。762~766はB類大型に分類される。762~766は底部下端がやや張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。外面に多量の鉄分の付着が見られる。763は底部から体部にかけて微小の段差が生じている部分もある。764は口縁部をやや薄く仕上げ、底部内面を平坦に調整する。765は全体的に器壁が厚い。766は底部内面中央が大きく凹み、器壁が非常に薄くなる。767はC類中型に分類される。767は底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。768は底部片である。底部下端が張り出す。



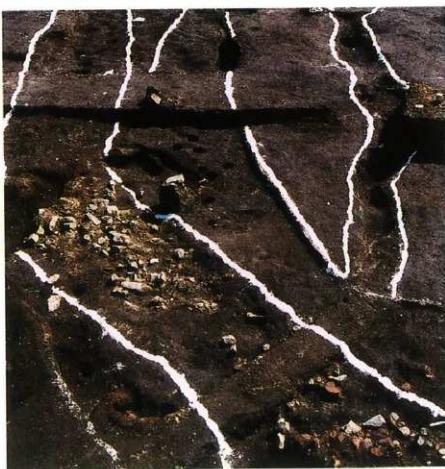
第78図 SD14・15・16・17・18 実測図



SD14～18
完掘状況
(北から：手前に
SD14・15、東西に
SD16～18あり)

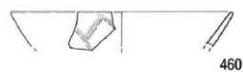


SD16～18
完掘状況（西から）

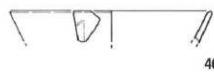


SD16～18
完掘状況（西から）

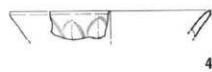
図版48 SD14・15・16・17・18写真



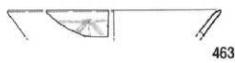
460



461



462



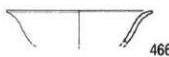
463



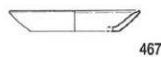
464



465



466



467



468



469



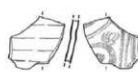
470



471



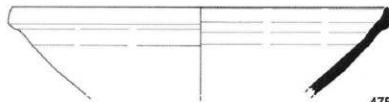
472



473



474



475



476



477



478



479



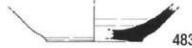
480



481



482



483

0 5 10cm

第79図 SD16・17・18 内出土遺物実測図 陶磁器

出発 番号	種類	形態	出土層 基盤	調査(外側)	調査(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
460	青磁	碗	SD16	施釉	施釉	灰白色	17.6	-	-	(反転復元) 龍泉窯青磁II-a類
461	青磁	碗	SD16	施釉	施釉	灰白色	16.0	-	-	(反転復元) 龍泉窯青磁II-b類
462	青磁	碗	SD18	施釉	施釉	灰白色	15.8	-	-	(反転復元) 龍泉窯青磁II-b類
463	青磁	碗	SD18	施釉	施釉	灰白色	16.8	-	-	(反転復元) 龍泉窯青磁II-b類
464	青磁	碗	SD18	施釉	施釉	灰白色	14.1	-	-	(反転復元) 龍泉窯青磁II-b類
465	青磁	人环小口瓶	SD18	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	龍泉窯系大杯型小口瓶
466	白磁	盖	SD18	施釉	施釉	灰白色	11.5	-	-	(反転復元) 白磁類
467	白磁	盖	SD16	施釉	施釉	灰白色	10.4	7.0	1.6	(反転復元) 白磁類
468	白磁	碗	SD16	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	碗V-kor青磁
469	白磁	盖	SD16	施釉	施釉	灰白色	-	6.2	-	(反転復元) 白磁類
470	白磁	盖	SD18	施釉	施釉	灰白色	-	5.8	-	(反転復元) 白磁類
471	白磁	盖	SD16	施釉	施釉	灰白色	-	6.8	-	(反転復元) 白磁類
472	白磁	碗	SD17	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	碗V-kor青磁
473	青白磁	盖板	SD16	施釉	開口ナメ	灰白色	-	-	-	
474	中国陶器	蓋	SD16	施釉	施釉	灰黃褐色	-	-	-	盤I-2類
475	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	29.5	-	-	(反転復元)
476	東漢系須芯部	片口斧	SD18	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
477	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
478	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
479	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
480	東漢系須芯部	斧	SD18	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
481	東漢系須芯部	斧	SD18	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	-	-	
482	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	10.8	-	(反転復元)
483	東漢系須芯部	斧	SD16	開口ナメ	開口ナメ	褐灰色	-	7.7	-	(反転復元)

第44表 SD16・17・18 内出土遺物観察表 陶磁器

32号溝状遺構 (SD32: 第81~83・88図・第47・52表・図版53・55・58)

D地区、ノ-33区からヒ-32区にかけて東西に走行する溝状遺構である。上端の径は2.2m、検出面からの深度は1.3mを測る。これ以上の東西方向への確認はできなかった。西側で確認しているSD35やSD38とつながる可能性もある。

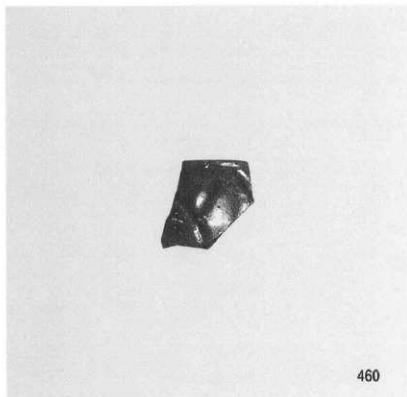
536は同安窯系青磁の口縁部片である。Ⅲ類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。537は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に劍先連弁文が施されている。IV類以降、14世紀後半以降のものである。547は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられ、内面にロクロ目をのこしている。555は瓦質土器擂鉢の口縁部片で、外面はやや焼成不良品である。557は灰釉陶器碗の体部片で、外面は釉の発色が不良である。

769、700は土師器小皿でB類中型に分類される。769、700は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部をやや薄く仕上げる。769は底部から体部の一部に段差が生じている部分もある。

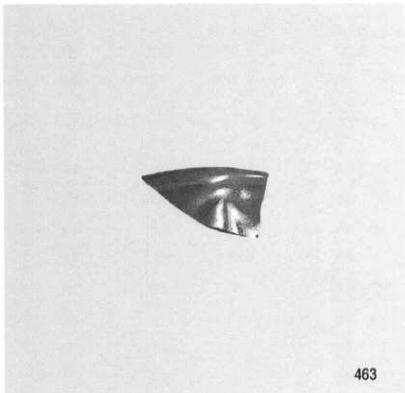
771は板状の鉄製品である。鑑の可能性がある。

33号溝状遺構 (SD33: 第101図・図版67)

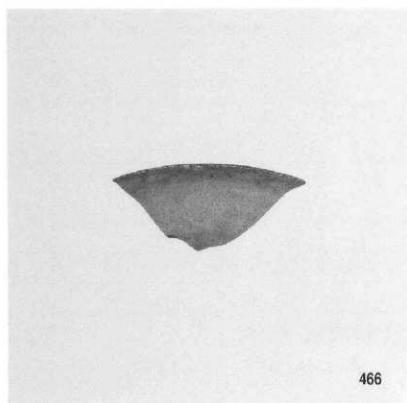
D地区南側、テ-ナ-30~31区において確認した。北西-南東方向に走行する。幅員は70cm弱、深度は約20cmである。



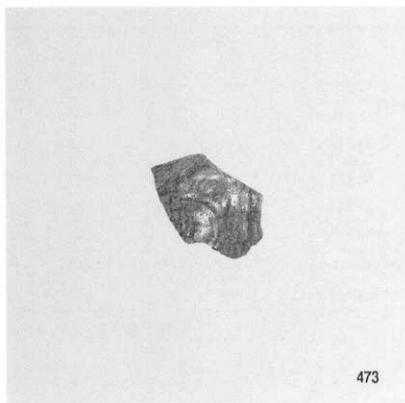
460



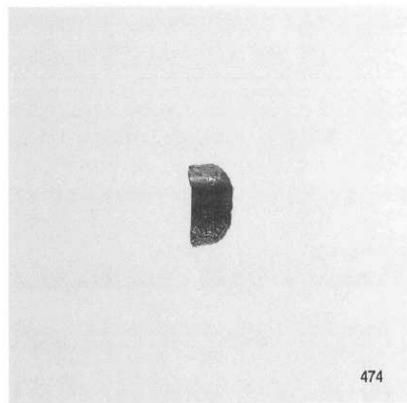
463



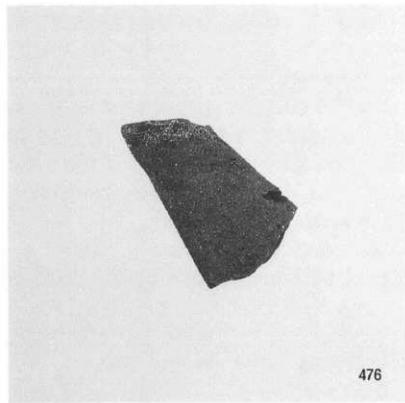
466



473

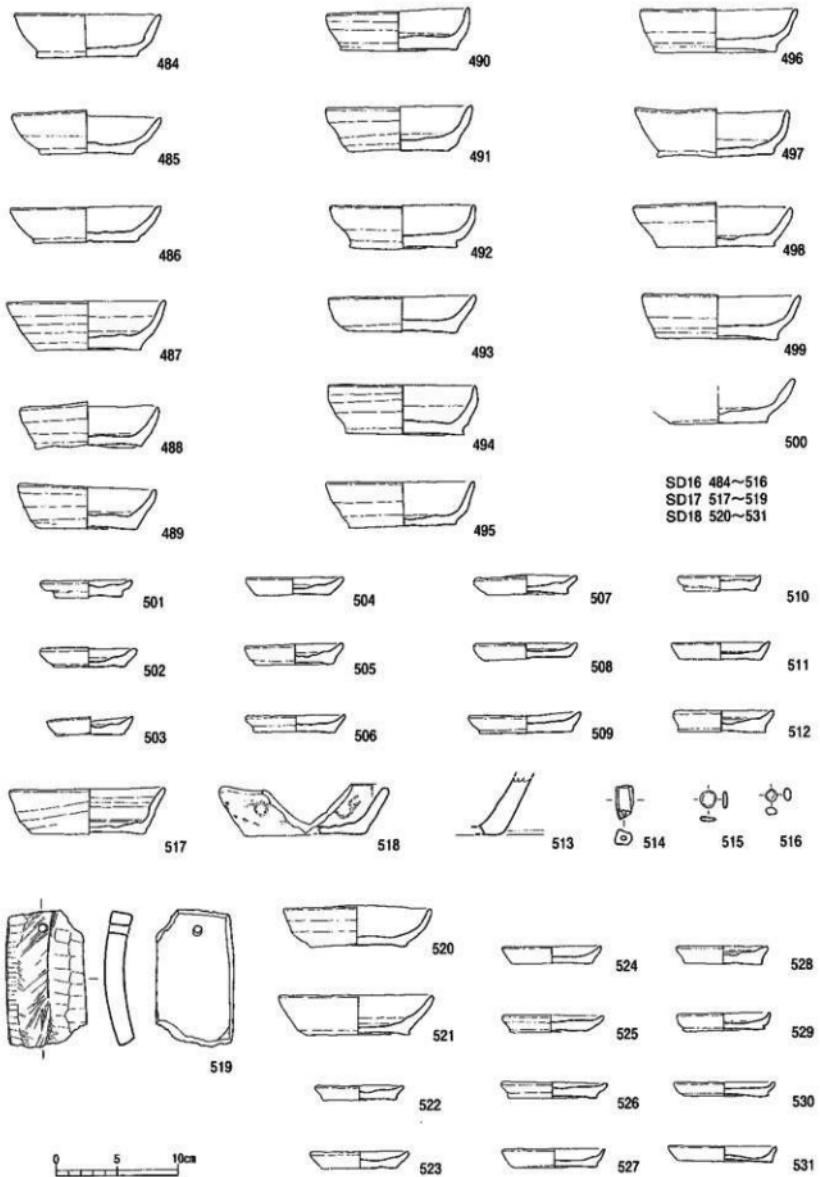


474



476

図版49 SD16・17・18 内出土遺物写真 陶磁器



第80図 SD16・17・18 内出土遺物実測図 土師器・石製品

番号	種別	器種	出土場所	調査(外観)	調査(内面)	色調(外観)	色調(内面)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考		
484	土師器	环	SD16	圓板ナデ	にぬけ (7.5YR7/4)	にぬけ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.0	8.3	36	圓板余切 板状圧痕 外面擦損痕 内底凹凸の凹	
485	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.3	7.7	35	圓板余切 板状圧痕 外面擦損痕	
486	土師器	环	SD16	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	12.3	8.3	32	圓板余切 反転復元	
487	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	13.0	8.3	39	圓板余切 植物焼痕の厚皮 外面 擦損痕 内底凹凸の凹	
488	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	11.7	8.0	36	圓板余切 植物焼痕の厚皮 外面 擦損痕 内底凹凸の凹	
489	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	11.3	8.8	35	圓板余切 板状圧痕 外面擦損痕	
490	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	12.0	9.4	34	圓板余切 板状圧痕 外面擦損痕	
491	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	12.0	8.5	36	圓板余切 片状圧痕 外面擦損痕	
492	土師器	环	SD16	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.1	8.8	35	圓板余切 板状圧痕	
493	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	12.1	9.0	29	圓板余切 植物焼痕 内底凹凸の凹	
494	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	12.2	9.8	41	圓板余切 口縁部内方に炭化物付着	
495	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	12.3	8.8	37	圓板余切 炭化物付着 外面擦損痕 内底凹凸の凹	
496	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.5	9.6	35	圓板余切 植物焼痕 外面擦損痕	
497	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	12.7	9.0	40	圓板余切 植物焼痕 外面擦損痕 内底上部付着
498	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	13.0	9.5	34	圓板余切 板状圧痕 外面擦損痕	
499	土師器	环	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	13.0	9.6	37	圓板余切 植物焼痕
500	土師器	环	SD16	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	-	8.0	-	圓板余切 片状圧痕 内底凹凸の凹	
501	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	7.6	5.6	14	圓板余切 内部くび部分付着	
502	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	8.0	5.8	15	圓板余切 片状圧痕	
503	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ+ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	2mm以下の粘土-砂粒	7.1	5.7	14	圓板余切
504	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.0	5.0	14	圓板余切 指捺痕 壁内底凹凸の凹	
505	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.0	6.5	17	圓板余切 表面剥落 内底凹凸の凹	
506	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.2	5.6	14	圓板余切 指捺痕	
507	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	8.4	5.6	14	圓板余切 内底凹凸の凹	
508	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.4	5.8	13	圓板余切 内底凹凸の凹	
509	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	9.1	7.3	16	圓板余切 指捺痕	
510	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	7.0	6.0	13	圓板余切 指捺痕	
511	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	7.6	5.5	14	圓板余切 頂端真 内底くび部分付着 壁剥落	
512	土師器	小皿	SD16	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	8.3	7.1	18	圓板余切 内底くび部分付着 壁剥落	
513	滑石製品	石磨	SD16	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
514	滑石製品	-	SD16	-	-	-	-	-	2.6	1.5	12	6.8g 石磨軸用穿孔		
515	石製品	墨石	SD16	-	-	-	-	-	1.4	1.2	0.4	1.1kg		
516	石製品	青石	SD16	-	-	-	-	-	1.0	1.0	0.6	1.0kg		
517	土師器	环	SD17	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.9	9.1	37	圓板余切 内底くび部分付着 板状圧痕	
518	土師器	环	SD17	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	14.0	9.8	40	圓板余切 板状圧痕 外側凹凸 内底凹凸	
519	滑石製品	-	SD17	-	-	-	-	-	11.4	6.1	16	23g 石磨軸用穿孔		
520	土師器	环	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	12.0	7.9	33	圓板余切 内底凹凸の凹 内底凹凸	
521	土師器	环	SD18	圓板ナデ+壁ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	12.1	8.7	32	圓板余切 板状圧痕	
522	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	7.3	6.1	12	圓板余切	
523	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.0	6.1	14	圓板余切	
524	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ+壁ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	ごく微小の粘土-砂粒	8.2	6.8	15	圓板余切 板状圧痕 反転復元
525	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ+壁ナデ	圓板ナデ (7.5YR7/4)	圓板ナデ (7.5YR7/4)	茶褐色 (2.5YR8/3)	茶褐色 (2.5YR8/3)	1mm以下の粘土-砂粒	8.4	6.5	13	圓板余切 指捺痕 外側擦損痕

第45表 SD16・17・18 内出土遺物観察表 土師器・石製品

地點番号	種別	番号	出土箇所	測量(外側)	測量(内側)	色調(外側)	色調(内側)	土	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備考
526	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ・胎ナデ	目板ナデ・胎ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の粘土質砂粒	87	73	14	頭板系切 板状圧痕 薄く内底ロク 口目
527	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ・胎ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の粘土質砂粒	85	70	15	頭板系切 頭板直
528	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の粘土質砂粒	77	66	15	圓板系切 内底炭化物・鉄分付
529	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ・胎ナデ	浅黄褐色 (10YR8/3)	浅黄褐色 (10YR8/3)	1mm以下の粘土質砂粒	78	68	14	頭板系切 板状圧痕 内底く鉄分付 着
530	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ	浅黄褐色 (10YR8/4)	浅黄褐色 (10YR8/4)	1mm以下の粘土質砂粒	83	71	13	頭板系切 胎頭直 内底く鉄分付 着
531	土師器	小皿	SD18	圓板ナデ	圓板ナデ・胎ナデ	明黄褐色 (10YR7/4)	浅黄褐色 (10YR7/4)	ごく細かい粘土質砂粒	86	73	13	頭板系切 板状圧痕 薄く内底ロク 口目

第46表 SD18 内出土遺物観察表 土師器

35号溝状遺構 (SD35 : 第102・103図・第60表・図版68・69)

D地区の南西端、グリッド：セ-31区からス-38区にかけて南北に走行する溝状遺構である。幅員は上端径で2m前後であり、南へ向かっていく分広がっている。検出面からの深度は80~90cmである。この溝状遺構はSD36・SD37・SD38と切り合っているが、時期的にはこのどれよりも新しい。

842は同安窯系青磁碗の体部片で、内・外面に施文されている。碗Ⅲ類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。843は白磁壺の肩・胴部片である。四耳壺Ⅲ類に相当するもので13世紀末から14世紀にかけてのものと思われる。844は青花碗の体部片で、外面に酸化コバルトを含む釉下顔料いわゆるゴス（具須）で文様が施されている。明時代（中国）のものである。845は瓦質土器擂鉢の口縁部片で、外面に指頭痕がみられ、これはロクロ成形後の指による調整の痕跡と思われる。また内面には3条の線刻がみられ、口唇部がややくぼんでいる。

36号溝状遺構 (SD36 : 第102図・図版68)

D地区の南西端、グリッド：セ-33区からセ-36区にかけて南北に走行する溝状遺構である。SD35と切り合っており、西側の上端がわからなかった。SD35より古いと考えられる。

37号溝状遺構 (SD37 : 第102図・図版68)

D地区の南西端、グリッド：シ-34区からセ-34区にかけて東西に走行する溝状遺構である。幅員は上端径で1m前後であり、検出面からの深度は50cm程度である。この溝状遺構はSD35・SD36と切り合っているが、断面上ではSD35より古く、不確かではあるが、SD36より新しい可能性がある。

38号溝状遺構 (SD38 : 第102図・図版68)

D地区の南西端、グリッド：シ-35~36区からセ-36区にかけて東西に走行する溝状遺構である。完掘していないため、全貌が不確かではあるが、検出状況から、幅員は上端径で6mを越え、南東方向へ走行軸を変えている可能性がある。SD35より古い時期となる。

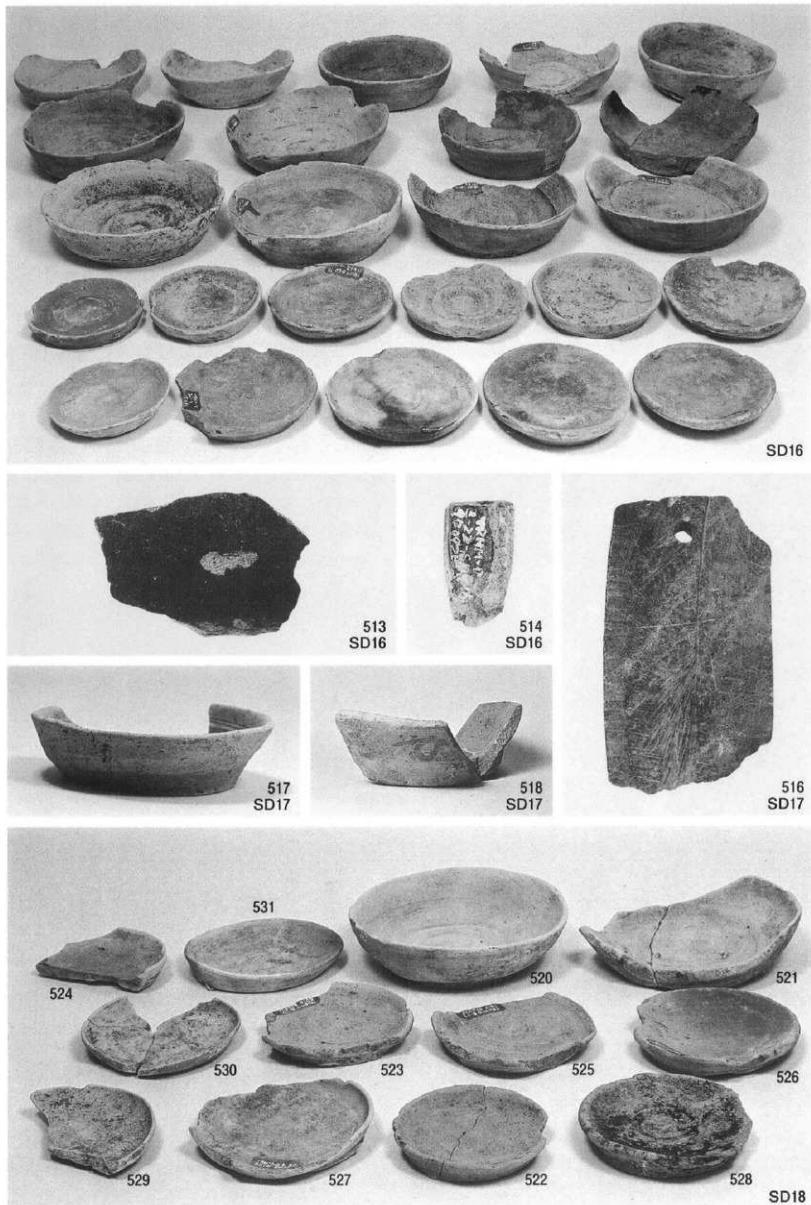
道路状遺構 (SF02~05 : 第104~106図・第61・62表・図版70~72)

D地区の西側、グリッド：シ-26区からソ-30区にかけて確認した。南側は近年の破壊を受けている。そこから北側へ走り、ソ-27区ではほぼ直角に西へ折れ、そのまま調査区外へ抜けている。面的に確認できたのは02・03の2面のみで、04・05については断面でその存在を確認した。この道路状遺構の幅は1m強ほどである。

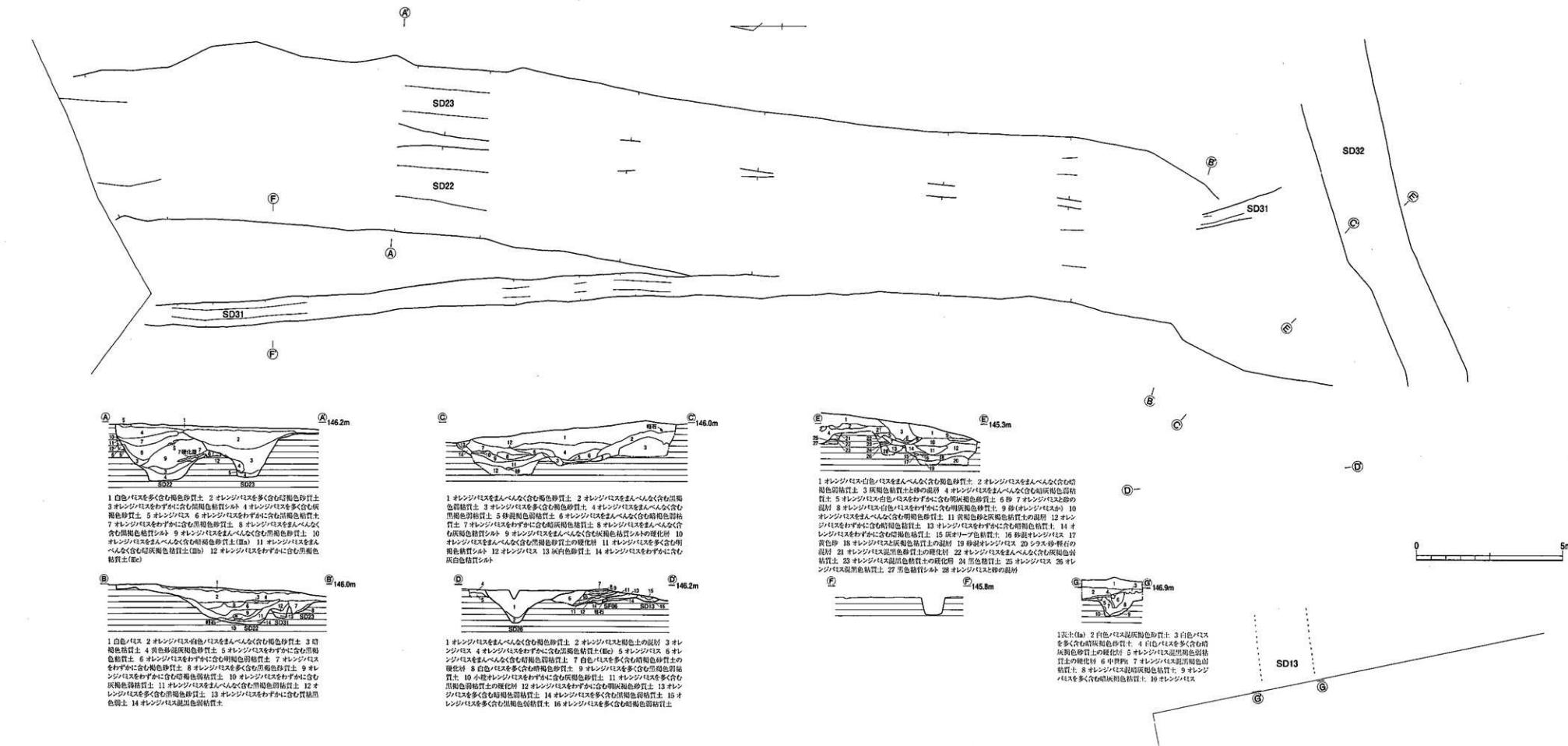
SF03出土遺物 847は白磁碗の口縁部片で、口縁がやや外反している。碗V-2類かⅣ類に相当するものと思われる。

SF03・04・括出土遺物 846は同安窯系青磁碗の口縁部片で、口縁がやや外反しており、外面は無文である。内・外面ともに釉に砂礫が混入しており粗製品である。碗Ⅱ類に相当し12世紀中頃から後半にかけてのものである。

SF04出土遺物 出土土師器の総重量は975gであった。848、849は坏である。848はC類小型、849はC類中



図版50 SD16・17・18 内出土遺物写真 土師器・石製品



第81図 SD13・22・23・31・32実測図



SD13 遺物出土状況（東から）



SD13 遺物出土状況（東から）



SD13 遺物出土状況



SD13 遺物出土状況（東から）



SD13 遺物出土状況

図版51 SD13 写真



SD22・23 検出状況（南から）



SD22 断面（南から）



SD23 断面（南から）



SD22・23 完掘状況
(手前から22・23)



SD23 完掘状況
(南東から)

図版52 SD22・23 写真



SD31 完掘状況（南から）

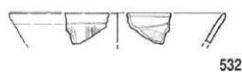


SD31 完掘状況（北から）

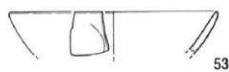


SD32 土層断面（北から）

図版53 SD31・32写真



532



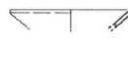
533



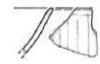
534



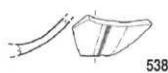
535



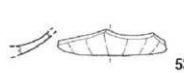
536



537



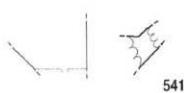
538



539



540



541



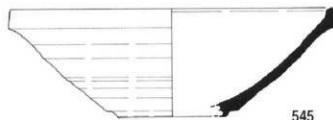
542



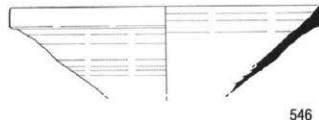
543



544



545



546



547



548



549



550



551

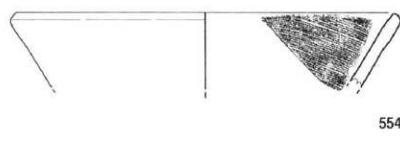


552

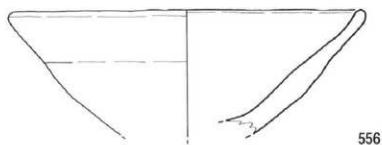
0 5 10cm

A scale bar indicating distances of 0, 5, and 10 centimeters.

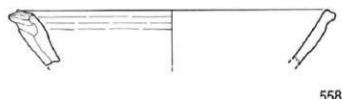
第82図 SD13・22・23・32 内出土遺物実測図 陶磁器(1)



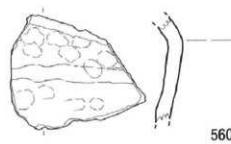
555



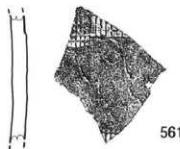
557



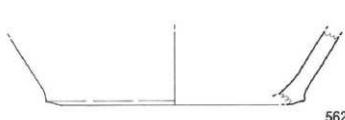
559



560



561



562



563

0 5 10cm

第83図 SD13・22・23・32 内出土遺物実測図 陶磁器(2)

器物番号	種類	器種	出土場所	調査(外面)	調査(内部)	胎土	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
532	青磁	碗	SD13	施釉	施釉	灰白色	17.2	-	-	(反転復元) 青磁窯系碗B-4a類
533	青磁	碗	SD22	施釉	施釉	灰白色	16.5	-	-	(反転復元) 青磁窯系碗B-4類
534	青磁	碗	SD22	施釉	施釉	灰白色	14.8	-	-	(反転復元) 青磁窯系碗B-4類
535	青磁	碗	SD23	施釉	施釉	灰白色	11.2	-	-	(反転復元) 青磁窯系碗B-2類
536	青磁	盤	SD22	施釉	施釉	灰白色	16	-	-	(反転復元) 青磁窯系盤B類
537	青磁	盤	SD22	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	青磁窯系盤B類
538	青磁	碗	SD22	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	青磁窯系碗B-1類
539	青磁	碗	SD22	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	青磁窯系碗B-1類
540	青磁	碗	SD23	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	(反転復元) 青磁窯系碗B-1類
541	白磁	碗	SD22	施釉	施釉	灰白色	-	-	-	(反転復元) 白耳盃B-3類?
542	青白磁	合子	SD13	施釉	施釉	灰白色	6.7	6.5	1.5	(反転復元) 合子の身
543	中田陶器	盤	SD22-23	施釉	施釉	灰黄色	-	-	-	盤B-2類 黄絵
544	中田陶器	盤	SD22-23	施釉	施釉	灰黄色	-	-	-	盤B-2類 黄絵
545	東播系須恵器	鉢	SD22-23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	25.6	8.7	8.5	(反転復元)
546	東播系須恵器	鉢	SD22-23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	24.6	-	-	(反転復元)
547	東播系須恵器	鉢	SD22	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
548	東播系須恵器	鉢	SD22-23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
549	東播系須恵器	鉢	SD23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	口沿部が剥げて欠損
550	東播系須恵器	鉢	SD23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	LI部が剥げて欠損
551	東播系須恵器	鉢	SD22	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
552	東播系須恵器	鉢	SD22-23	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	10.4	-	(反転復元)
553	瓦質土器	瓶	SD22	圓板ナデ	圓板ナデ	灰黄色	26.4	-	-	(反転復元) 外面に點付文帯
554	瓦質土器	瓶	SD22	圓板ナデ	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	(反転復元)
555	瓦質土器	瓶	SD22	圓板ナデ	圓板ナデ	にいき褐色	-	-	-	
556	瓦質土器	瓶	SD22-23	圓板ナデ	圓板ナデ	にいき褐色	26.4	-	-	(反転復元)
557	灰釉陶器	瓶	SD32	施釉	施釉	灰黄色	-	-	-	
558	常滑	片口鉢	SD23	圓板ナデ	自然釉	褐灰色	25.8	-	-	(反転復元) 6輪 13C
559	常滑	盤	SD22-23	自然釉	自然釉	褐灰色	-	-	-	6a期
560	常滑	盤	SD22-23	自然釉	圓板ナデ	褐灰色	-	-	-	
561	常滑	葵かき	SD22	葵子口ナメ	圓板ナデ	灰黄色	-	-	-	
562	常滑	盤	SD23	圓板ナデ	自然釉	灰黄色	-	20.4	-	(反転復元)
563	田舎陶器	片口鉢	SD22	施釉	施釉	褐灰色	-	-	-	足印

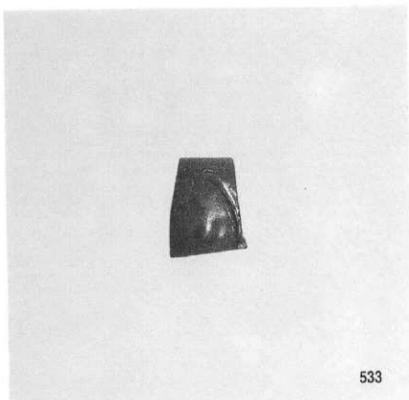
第47表 SD13・22・23・32 内出土遺物観察表 陶磁器

型に分類される。848、849は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。850～852は小皿である。850はB類中型に分類される。底部下端がわずかに張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。851、852は底部～体部である。

SF05出土遺物 出土土器の総重量は3,239 gであった。壺が浅黄褐色系、小皿が橙色系の色調が主となり、器種により色調に相違が見られる。853～864は壺である。853、854はB類中型に分類される。853、854は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。853は器高が4.2cmと高く、854は3.0cmとやや低い。855はB類大型に分類される。底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。856～858はC類小型に分類される。856、857は底部下端が大きく張り出し、体部は曲線的に立ち上がる。858は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。859～863はC類中型に分類され



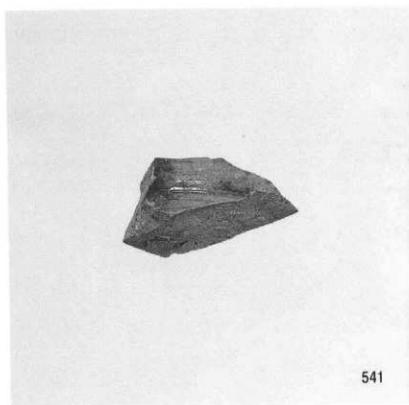
532



533



534



541

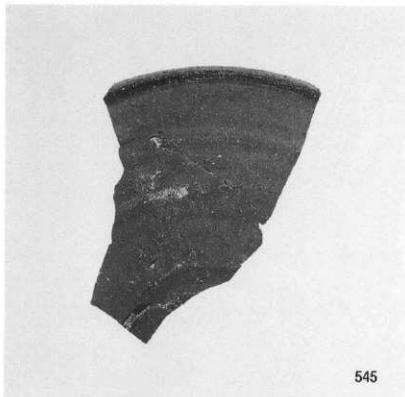


542



543

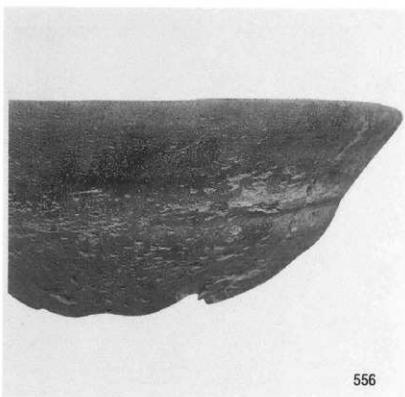
図版54 SD13・22・23・32 内出土遺物写真 陶磁器



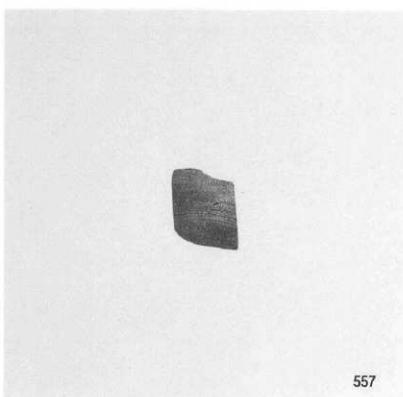
545



553



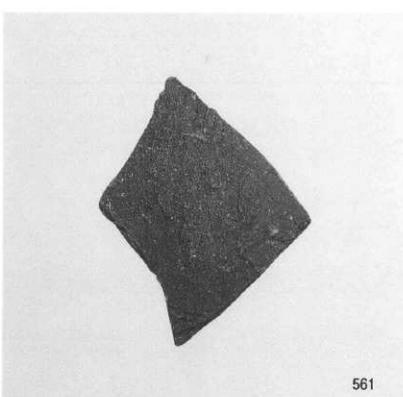
556



557



558



561

図版55 SD22・23・32 内出土遺物写真 陶磁器

る。859、860は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。860は底部下端に糸痕跡が残る。861、862は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。861は体部外面に明瞭なロクロ目が残る。863は底部下端が若干張り出し、底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。864はC類大型に分類される。底部から体部にかけてやや曲線的に立ち上がる。865は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

866～878は小皿である。866はB類小型に分類される。底部下端が張り出し、糸痕跡が半周する。底部から体部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部は薄く仕上げる。底部が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。867～870はB類中型に分類される。867、868は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。867は底部下端に糸痕跡が半周し、底部が厚く、口縁部から底部内面までがごく浅い。869は底部から体部にかけて一旦屈曲した後、体部は直線的に立ち上がる。口縁部は薄く仕上げる。870は底部から体部にかけて段差が形成される。底部内面中央が大きく凹む。871～873はB類大型に分類される。871は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。体部は直線的であるが、底部から体部にかけて一部に段差が形成される。872は底部から体部にかけて一旦屈曲した後、体部が大きく開く。口縁部から底部内面までが浅い。873は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。体部は直線的であるが、底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。874～876はC類中型に分類される。874は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて外反気味に立ち上がる。875は底部下端が張り出し、糸痕跡が残る。体部は直線的であるが、底部から体部にかけて一部に段差が形成される。876は底部下端が張り出し、糸痕跡が強く残る。底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。877、878はC類大型に分類される。877、878は底部下端が張り出し、底部から体部にかけて直線的に立ち上がる。

879は坏底部である。内面に墨書きを行う。判読不明である。880はふいご羽口片先端部片である。溶融物、鉄滓等が付着する。通風孔の復元径は3.2cmである。

1号焼土遺構 (SJ01 : 第107図・図版73)

D地区西側、シ-24区に位置する。北西-南東に方向軸をもち、長径2.2m、短径1.4mを測る土坑状の落ち込みがある。周囲には大きめの石が散在しており、それを赤い焼土が取り囲むような状態であった。

2号焼土遺構 (SJ02 : 第107図・図版73)

D地区西側、シ-24区に位置する。西側半分は調査区外である。東西に方向軸があるとみられる。径は不明だが、SJ01と同様に土坑状の落ち込みがある。周囲には大きめの石が散在しており、それを赤い焼土が取り囲むような状態であった。

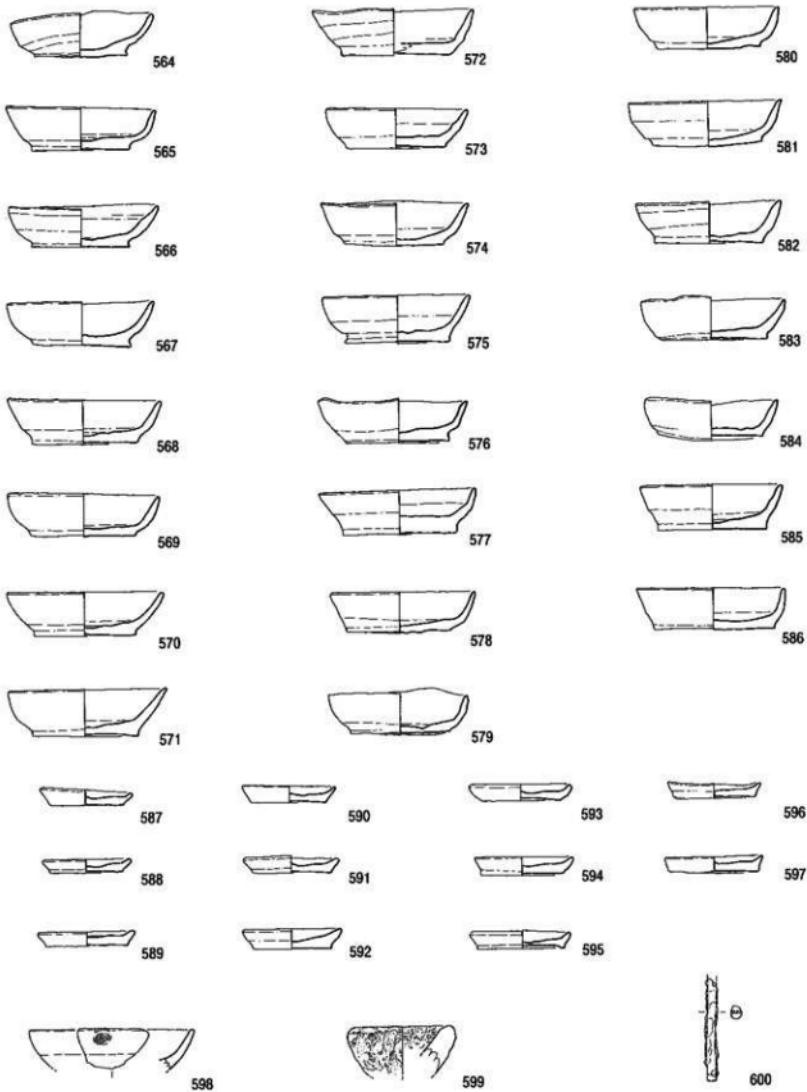
1号敷石状遺構 (SS01 : 第108～110図・第63・64表・図版74～76)

ソ-タ-20区にある。SD06の真上に位置する。調査区外から北へのび、弓形に北西方向へ折れ、消滅している。小石と土器片を主体に、夥しく集積された状態であった。

881は龍泉窯系青磁碗の口縁～体部片で、外面に鏽斑弁文が施されている。碗II-b類に相当し13世紀初頭から前半にかけてのものである。882は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、口縁は直に立ち上がり外反しており、外面に鏽斑弁文が施されている。碗III-2c類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。883は龍泉窯系青磁碗の口縁部片で、外面に雷文が施されている。碗IV類以降で14世紀後半から15世紀前半のものと思われる。884、885は白磁皿の口縁部片である。皿IX類に相当し13世紀中頃から14世紀初頭にかけてのものである。886はX類に相当する白磁合子蓋の天井部片で、外面に文様が施されている。13世紀末から14世紀初頭にかけてのものと思われる。887は白磁四耳壺の底部片である。四耳壺III-3類に相当するもので13世紀末から14世紀代のものと思われる。888は東播系須恵器鉢の口縁部片で、口唇部外面に重ね焼きの痕跡である自然釉がみられる。

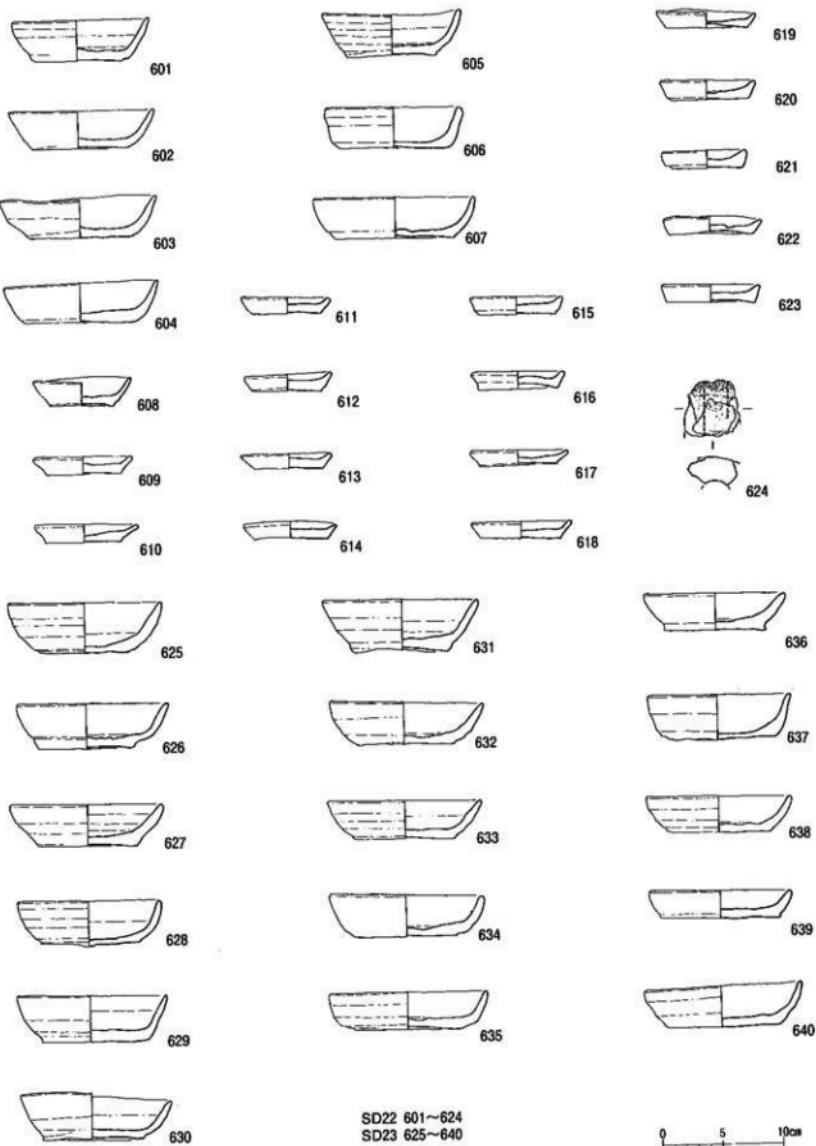
出土土器の総重量は75gであった。889は坏底部片で底部下端が張り出す。890は小皿でB類大型に分類される。底部から体部にかけて曲線的に立ち上がる。891は坏体部片である。墨書きを行う。判読不明である。

892は基石と考えられる。黒色系の色調を呈する。893はふいご羽口の体部片である。通風孔の復元径は3.2cmを測る。外面には細い筋状の溝みが連続して巡る。894は短刃である。目釘穴が2箇所に確認される。

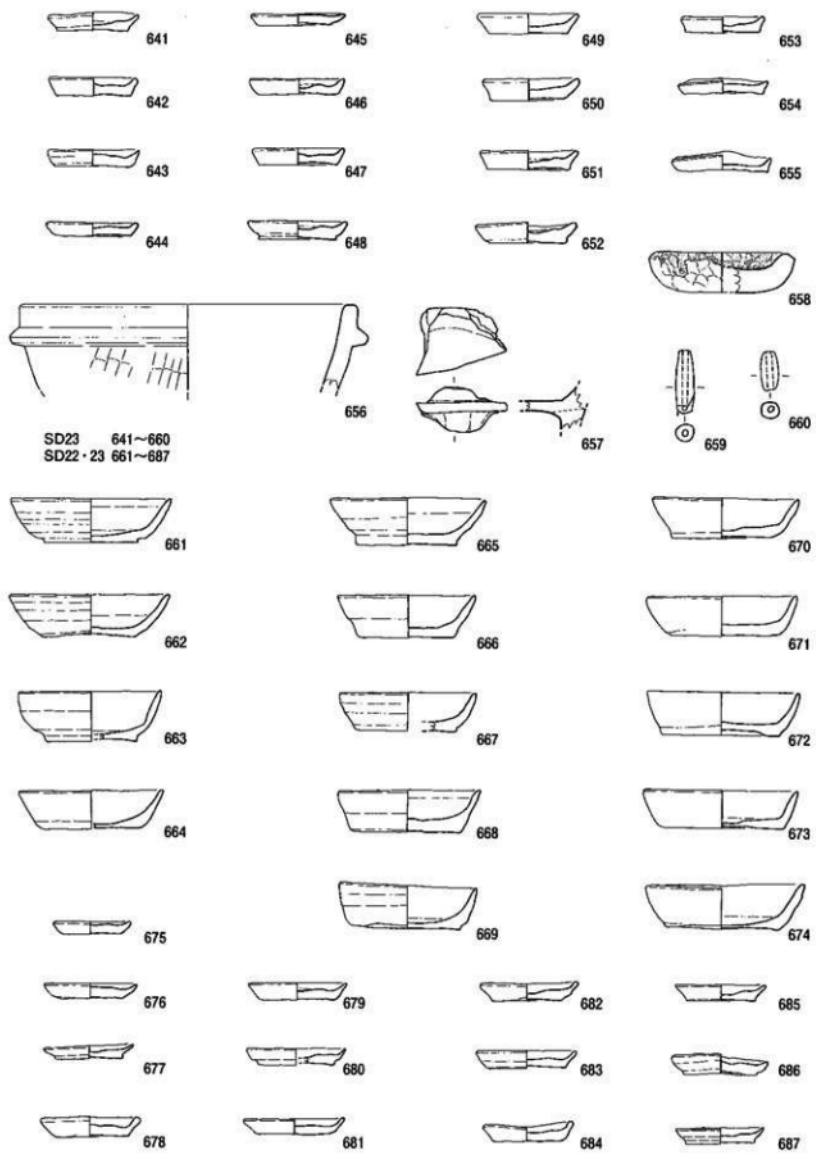


0 5 10cm

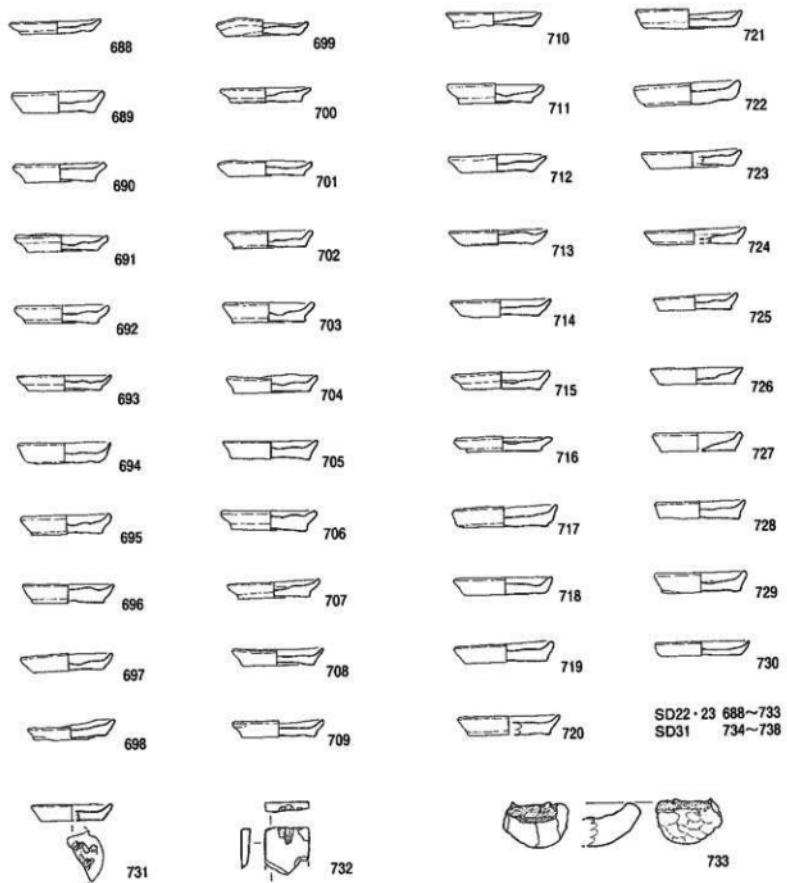
第84図 SD13 内出土遺物実測図 土師器・鍛冶関連製品・鉄製品



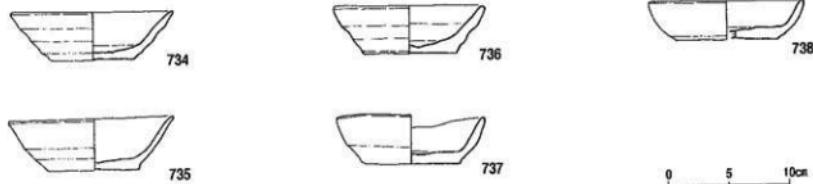
第85図 SD22・23 内出土遺物実測図 土師器・鍛冶関連製品



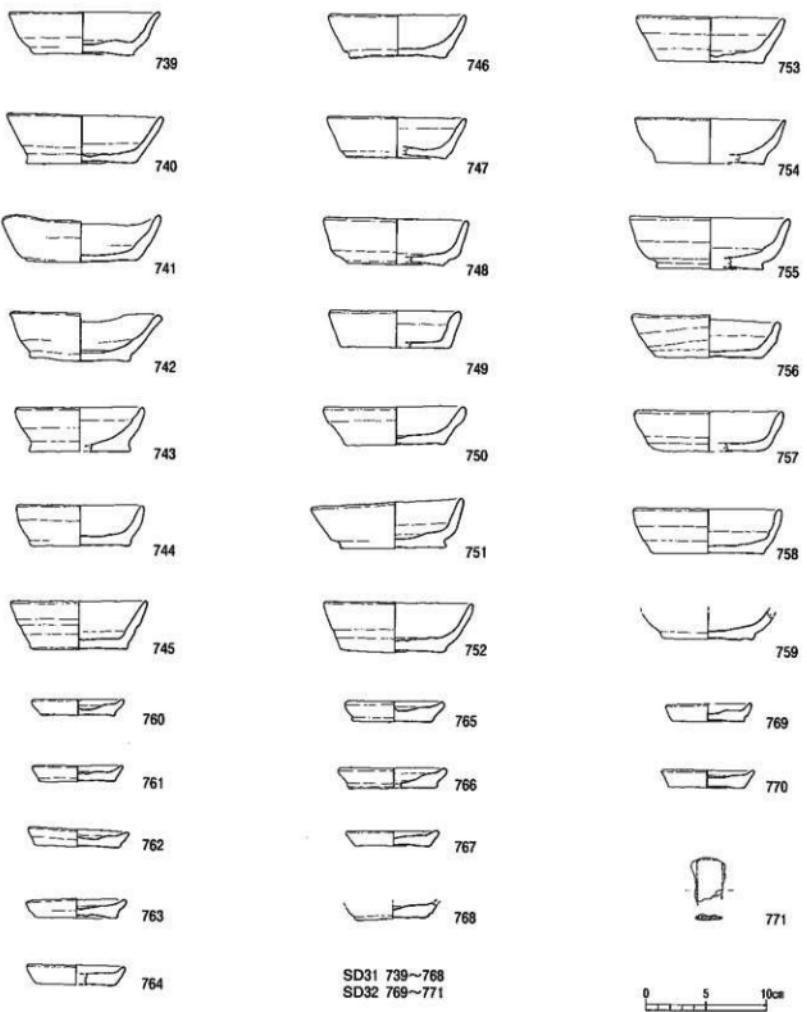
第86図 SD22・23内出土遺物実測図 土師器・石製品・鐵冶関連製品・土製品



SD22・23・31 688~733
SD31 734~738



第87図 SD22・23・31 内出土遺物実測図 土師器・石製品・鐵冶関連製品



第88図 SD31・32内出土遺物実測図 土師器・鉄製品

国名・考古学名	種類	器種	出土場所	調査(外観)	調査(内観)	色調(外観)	色調(内観)	断面	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考
564 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	圓軸ナメ	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	ごく薄いの軽物-砂粒	11.8	8.0	3.5	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕 内外部分付者
565 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ・輪ナメ	圓軸ナメ・輪ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	12.4	8.1	3.5	圓軸系別
566 七輪器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	圓軸ナメ	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	1mm以下の軽物-砂粒	12.7	8.2	3.4	圓軸系別 外部擦痕
567 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	圓軸ナメ	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	1mm以下の軽物-砂粒	12.2	8.2	3.6	圓軸系別 板状压痕
568 土器器	环	SD13	圓軸ナメ・輪ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	12.6	8.5	3.7	圓軸系別 外部擦痕 薄く内凹ロゴロゴ
569 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	12.6	8.6	3.5	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
570 七輪器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	13.0	8.6	3.6	反転復元 圓軸系別 構状压痕
571 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	1mm以下の軽物-砂粒	12.9	8.7	3.8	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕 薄く内凹ロゴロゴ
572 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	13.0	9.0	3.9	圓軸系別 外部擦痕 薄く内凹ロゴロゴ
573 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	11.9	8.4	3.8	圓軸系別 振状压痕 外部擦痕
574 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	2mm以下の軽物-砂粒	12.0	8.4	3.7	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
575 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ・輪ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	ごく薄いの軽物-砂粒	12.3	8.6	3.9	圓軸系別 板状压痕 内凹ロゴロゴ
576 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	12.5	8.7	3.5	圓軸系別
577 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ・輪ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	浅黄緑	12.8	9.0	3.7	圓軸系別 外部擦痕
578 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ・輪ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	ごく薄いの軽物-砂粒	12.1	8.8	3.4	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
579 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑を含む	11.8	8.7	3.5	圓軸系別 構状压痕 内凹ロゴロゴ
580 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ・輪ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	1mm以下の軽物-砂粒	12.1	8.8	3.5	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
581 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	12.5	9.0	4.2	圓軸系別 構状压痕
582 七輪器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	1mm以下の軽物-砂粒	11.6	8.9	3.4	圓軸系別 振状压痕 外部擦痕
583 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	11.7	9.0	3.4	圓軸系別 内部擦痕
584 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑	11.8	9.0	3.8	圓軸系別 構状压痕 外部擦痕 内外部分付者
585 上縁器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	11.8	9.2	3.7	圓軸系別 構状压痕 外一部指ナデ 反転復元
586 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	1mm以下の軽物-砂粒	12.7	10.3	3.4	圓軸系別 構状压痕
587 上縁器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	2mm以下の軽物-砂粒	7.8	6.0	1.3	圓軸系別
588 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	7.3	5.8	1.1	圓軸系別 構状压痕
589 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	7.8	6.5	1.3	圓軸系別 構状压痕 内凹ロゴロゴ
590 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	ごく薄いの軽物-砂粒	7.7	6.2	1.1	圓軸系別 外部擦痕 内外部分付者
591 上縁器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/5)	にごく薄 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	7.8	6.4	1.4	圓軸系別 構状压痕
592 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	ごく薄いの軽物-砂粒	8.2	6.5	1.7	圓軸系別 構状压痕 薄く内凹ロゴロゴ 反転復元
593 上縁器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	ごく薄いの軽物-砂粒	8.6	6.5	1.4	圓軸系別 内外部擦痕 分付者
594 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	ごく薄いの軽物-砂粒	8.0	6.6	1.5	圓軸系別 外一部指ナデ
595 上縁器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	1mm以下の軽物-砂粒	8.2	6.9	1.4	圓軸系別 構状压痕 内凹ロゴロゴ
596 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	1mm以下の軽物-砂粒	7.7	6.9	1.3	圓軸系別 構状压痕
597 土器器	小皿	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (10YR7/4)	にごく薄 (10YR7/4)	ごく薄いの軽物-砂粒	7.7	7.2	1.4	圓軸系別 構状压痕 内外部擦痕-分付者
598 土器器	环	SD13	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (7SYR7/5)	淡青緑 (7SYR7/5)	2mm以下の軽物-砂粒	13.6	-	-	外木素質 反転復元
599 鎔治関連	灯明	SD13	-	-	-	-	-	3mm以下の軽物-砂粒	9.0	-	-	泥融物 反転復元
600 鉄製品	?	SD13	-	-	-	-	-	-	8.5	0.8	1.0	8.0g
601 土器器	环	SD22	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/4)	にごく薄 (7SYR7/4)	1mm以下の軽物-砂粒	11.6	7.3	3.2	圓軸系別 内凹ロゴロゴ
602 土器器	环	SD22	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	にごく薄 (7SYR7/4)	にごく薄 (7SYR7/4)	1mm以下の軽物-砂粒	12.1	7.3	3.2	圓軸系別 外部擦痕 反転復元
603 土器器	环	SD22	圓軸ナメ・輪ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	2mm以下の軽物-砂粒	12.8	8.4	3.4	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
604 土器器	环	SD22	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	1mm以下の軽物-砂粒	12.7	8.9	3.3	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕
605 土器器	环	SD22	圓軸ナメ	圓軸ナメ	輪	淡青緑 (10YR8/3)	淡青緑 (10YR8/3)	2mm以下の軽物-砂粒	11.6	8.6	3.8	圓軸系別 板状压痕 外部擦痕 分付者

第48表 SD13・22 内出土遺物観察表 土器器・鋳冶関連製品・鉄製品

地質分類	種別	器種	出土層位	調査(外因)	調査(内因)	色調(外因)	色調(内因)	施土	LJ径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	備考	
606	土器器	环	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	11.5	9.0	3.3	圓板赤切 板状紅茶 内部指痕 外部指痕
607	土器器	环	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	13.5	10.1	3.4	圓板赤切 外部指痕 反版復元
608	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	2mm以下の粘物-砂粒	8.1	5.1	2.2	圓板赤切 塔状紅茶 外部指痕
609	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	2mm以下の粘物-砂粒	8.0	5.9	1.4	圓板赤切 指痕灰 内部指痕
610	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	3mm以下の粘物-砂粒	8.6	6.2	1.5	圓板赤切 指痕灰 内部指痕 外部指痕
611	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	7.1	5.5	1.3	圓板赤切 内部指痕 反版復元
612	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/3)	3mm以下の粘物-砂粒	7.3	5.6	1.4	圓板赤切 塔状紅茶
613	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	灰白 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	7.5	6.0	1.2	圓板赤切
614	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	3mm以下の粘物-砂粒	7.9	6.3	1.5	圓板赤切 外部指痕	
615	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	3mm以下の粘物-砂粒	7.5	6.3	1.6	圓板赤切	
616	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	3mm以下の粘物-砂粒	7.7	6.5	1.5	圓板赤切 指痕灰	
617	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の粘物-砂粒	8.1	6.4	1.3	圓板赤切 指痕灰 外部指痕
618	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	8.2	6.4	1.4	圓板赤切 指痕灰
619	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の粘物-砂粒	8.1	6.7	1.4	圓板赤切 指痕灰
620	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	8.0	6.7	1.9	圓板赤切 指痕灰 内部指痕
621	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の粘物-砂粒	7.0	6.0	1.5	圓板赤切 灰色
622	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	8.2	6.9	1.4	圓板赤切 内部粘土粒
623	土器器	小皿	SD22	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	1mm以下の粘物-砂粒	8.2	7.4	1.5	圓板赤切
624	鍛冶関連	羽口	SD22	-	-	-	-	2mm以下の粘物-砂粒	-	-	-	先端部 製造物	
625	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	12.8	7.2	4.1	圓板赤切 内部粘土粒付 反版復元	
626	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ	淡青灰 (10YR8/4)	淡青灰 (10YR8/4)	1mm以下の粘物-砂粒	12.4	7.9	3.7	圓板赤切 内部指痕	
627	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	12.9	8.1	3.4	圓板赤切 外部指痕 反版復元	
628	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/4)	淡青灰 (10YR8/4)	2mm以下の粘物-砂粒	12.0	8.1	3.8	圓板赤切 内部粘土粒付	
629	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	1mm以下の粘物-砂粒	12.4	8.2	3.5	圓板赤切 ナダ 外部指痕 内部粘土粒付	
630	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	12.5	8.4	3.5	圓板赤切
631	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	2mm以下の粘物-砂粒	13.1	8.2	4.3	圓板赤切 表表紅茶 外一部粉ナダ 外部指痕 反版復元	
632	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	1mm以下の粘物-砂粒	13.0	8.2	3.5	圓板赤切 模様切 塔状紅茶	
633	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	13.0	8.6	3.2	圓板赤切 反版復元	
634	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	1mm以下の粘物-砂粒	13.0	8.7	3.4	圓板赤切 灰色 施土 施灰	
635	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	ごく小さな粘物-砂粒	13.1	8.4	3.1	圓板赤切 内外部付着物	
636	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/4)	淡青灰 (10YR8/4)	1mm以下の粘物-砂粒	11.7	8.5	3.0	圓板赤切 外部指痕 反版復元	
637	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	11.8	9.1	3.7	圓板赤切 灰色 施土 外部指痕	
638	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	2mm以下の粘物-砂粒	12.1	8.6	3.0	圓板赤切 反版復元	
639	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	1mm以下の粘物-砂粒	12.8	10.0	2.3	圓板赤切 朱紅江漬	
640	土器器	环	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	13.1	9.2	3.4	圓板赤切 指痕灰	
641	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	7.5	6.0	1.4	圓板赤切 指痕灰 薄く内底ロクロ目	
642	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	に淡い青緑 (7.5YR7/3)	3mm以下の粘物-砂粒	7.4	6.2	1.5	圓板赤切 指痕灰 反版復元	
643	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	淡青灰 (10YR8/3)	淡青灰 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	7.7	6.3	1.4	圓板赤切 外部指痕
644	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	7.7	6.3	1.1	圓板赤切 灰色	
645	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ-塔ナダ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	2mm以下の粘物-砂粒	7.7	6.4	1.4	圓板赤切 ナダ	
646	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	1mm以下の粘物-砂粒	7.9	6.6	1.3	圓板赤切 反版復元	
647	土器器	小皿	SD23	圓輪ナダ	圓輪ナダ	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	に淡い青緑 (7.5YR7/4)	1mm以下の粘物-砂粒	7.6	6.5	1.4	圓板赤切 反版復元	

第49表 SD22・23 内出土遺物観察表 土器器・鍛冶関連製品

編號	種別	形 種	出土地 備	調 査(外觀)	調 査(内面)	色調(外觀)	色調(内面)	新 土	口徑(cm)	底径(cm)	厚高(cm)	備 考
648	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡黃褐色 (10YR7/3)	淡黃褐色 (10YR7/3)	2mm以下の底物-砂粒	8.2	6.4	1.5	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質
649	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	1mm以下の底物-砂粒	8.1	6.5	1.7	圓盤赤切 淡綠質 内底ロクロ目 反折銀質
650	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	1mm以下の底物-砂粒	8.0	6.4	1.8	圓盤赤切 反折銀質
651	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/4)	に伝へ青緑 (10YR7/4)	2mm以下の底物-砂粒	8.1	6.7	1.6	圓盤赤切
652	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡黃褐色 (10YR8/3)	淡黃褐色 (10YR8/3)	1mm以下の底物-砂粒	8.1	6.3	1.6	圓盤赤切 銀質直
653	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡黃 (10YR8/2)	淡黃 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	6.9	6.2	1.3	圓盤赤切
654	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/3)	淡黃褐色 (10YR8/3)	2mm以下の底物-砂粒	7.1	6.5	0.9	圓盤赤切 板狀直底
655	土師器	小皿	SD23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/4)	に伝へ青緑 (10YR7/4)	2mm以下の底物-砂粒	7.9	7.1	1.5	圓盤赤切 淡綠質直底 外指銀質
656	酒器類品	石鍋	SD23	-	-	-	-	-	26.2	-	-	反折銀質
657	土製品	火鉢	SD23	-	-	に伝へ青緑 (10YR7/2)	淡白 (10YR7/1)	1mm以下の底物-砂粒	-	-	-	青部
658	鍛冶関連	埋壙	SD23	ナデ	-	-	-	3mm以下の底物-砂粒	12.0	7.0	3.4	溶融物 外指銀質 反折銀質
659	土製品	土鉢	SD23	-	-	淡黃褐色	-	4mm以下の底物-砂粒	5.1	1.5	-	16.3kg 久保
660	土製品	土鉢	SD23	-	-	淡白 (10YR8/2)	-	3mm以下の底物-砂粒	3.3	1.5	-	6.2g
661	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	13.4	7.8	3.6	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質 内底ロクロ目
662	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	四輪ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	13.3	7.9	3.5	圓盤赤切 懸掛赤底 外指銀質
663	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ→唇ナデ	圓盤ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	11.9	7.6	4.1	圓盤赤切
664	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	5mm以下の底物-砂粒	12.0	8.1	3.1	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質 單孔 反折銀質
665	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ→唇ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	13.3	8.7	3.4	圓盤赤切 細縫直 外指銀質
666	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	11.6	8.2	3.5	圓盤赤切 ナデ 板狀直底 無孔 反折銀質
667	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	11.5	8.9	3.4	圓盤赤切 暗灰直底 外指銀質 無孔-無孔-無孔-無孔-無孔
668	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	11.8	9.3	3.2	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質 無孔
669	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	ごく微小の底物-砂粒	11.5	9.6	3.6	圓盤赤切 暗灰直底 外指銀質
670	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	判斷ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	12.2	8.7	3.3	圓盤赤切 忽死
671	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	12.5	8.8	3.3	圓盤赤切 板狀直底 ナデ 外指 銀質 内底一混合物物質
672	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	判斷ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	12.7	9.4	3.6	圓盤赤切 板狀直底 工具痕 六角形-六角形-六角形
673	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	12.9	9.5	3.1	圓盤赤切 暗灰直底 無孔 外指 銀質
674	土師器	环	SD22-23	圓盤ナデ→唇ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	13.0	9.2	3.5	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質
675	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	1mm以下の底物-砂粒	6.6	4.6	1.0	圓盤赤切 板狀直底 外指銀質
676	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	3mm以下の底物-砂粒	7.8	5.5	1.3	圓盤赤切 ナデ
677	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	ごく微小の底物-砂粒	7.5	5.6	1.1	圓盤赤切 銀質直
678	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	8.2	6.0	1.6	圓盤赤切 銀質直
679	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	8.1	6.0	1.4	圓盤赤切 ナデ 反折銀質
680	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	4mm以下の底物-砂粒 網膜組織	8.2	6.1	1.4	圓盤赤切 反折銀質
681	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	8.3	6.1	1.3	圓盤赤切 深銀質 萎弱化 内底ロクロ目
682	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	8.0	6.0	1.5	圓盤赤切 銀質直
683	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	ごく微小の底物-砂粒	8.3	6.2	1.5	圓盤赤切 深銀質
684	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	淡白 (10YR8/2)	淡白 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	7.4	5.8	1.5	圓盤赤切 銀質直
685	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR7/2)	に伝へ青緑 (10YR7/2)	1mm以下の底物-砂粒	7.5	5.8	1.3	圓盤赤切 深銀質 内底ロクロ目
686	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	7.9	6.6	1.5	圓盤赤切 銀質直
687	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR8/2)	に伝へ青緑 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	7.3	5.7	1.3	圓盤赤切 深銀質 内底ロクロ目
688	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ→唇ナデ	淡黃褐色 (10YR8/2)	淡黃褐色 (10YR8/2)	2mm以下の底物-砂粒	7.5	5.9	1.1	圓盤赤切 銀質直
689	土師器	小皿	SD22-23	圓盤ナデ	圓盤ナデ	に伝へ青緑 (10YR8/2)	に伝へ青緑 (10YR8/2)	1mm以下の底物-砂粒	7.8	6.0	1.7	圓盤赤切 反折銀質

第50表 SD22・23 内出土遺物観察表 土師器・石製品・鍛冶関連製品・土製品

番号	種別	器種	出土層	測量(外寸)	測量(内寸)	色調(外側)	色調(内側)	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考
690	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (7SYR5/4)	淡黃金 (7SYR5/4)	2mm以下の灰物・砂粒	7.8	6.0	1.5	回転丸切 指揮鏡 内底化粧付 反転復元
691	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.8	6.0	1.4	回転丸切 指揮鏡 内底クロロ
692	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.8	6.1	1.4	回転丸切 指揮鏡
693	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/4)	淡黃金 (10YR5/4)	ごく微少の灰物・砂粒	7.9	6.2	1.3	回転丸切 指揮鏡 反転復元
694	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	2mm以下の灰物・砂粒	7.8	6.0	1.7	回転丸切 指揮鏡 廉瓦 直板復元
695	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.0	1.6	回転丸切 指揮鏡 灰瓦 反転復元
696	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/4)	淡黃金 (10YR5/4)	2mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.0	1.6	回転丸切 指揮鏡 灰瓦
697	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.0	1.4	回転丸切 指揮鏡 內底クロロ
698	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.2	5.7	1.3	瓶狀直瓶
699	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	2mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.1	1.3	回転丸切 指揮鏡
700	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	灰白 (10YR5/2)	灰白 (10YR5/2)	2mm以下Fの灰物・砂粒	7.6	6.0	1.3	瓶狀 反転復元
701	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.8	6.2	1.3	回転丸切 指揮鏡
702	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/4)	に淡・青黄 (10YR7/4)	1mm以下の灰物・砂粒	7.2	6.0	1.4	回転丸切
703	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/4)	に淡・青黄 (10YR7/4)	ごく少の灰物・砂粒	7.4	6.0	1.6	回転丸切 ナラ 指揮鏡
704	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.1	6.0	1.3	回転丸切 指揮鏡
705	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/4)	淡黃金 (10YR5/4)	3mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.2	1.5	回転丸切 板状頂灰 内底クロロ
706	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.9	6.3	1.6	回転丸切 指揮鏡 海・内底クロロ
707	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.2	1.3	回転丸切 指揮鏡 內底クロロ
708	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.1	5.7	1.3	回転丸切 板状頂灰 内底鉢底
709	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/2)	淡黃金 (10YR5/2)	2mm以下の灰物・砂粒	7.7	6.0	1.2	回転丸切 指揮鏡
710	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	3mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.2	1.5	回転丸切 板状頂灰 内底クロロ
711	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	白 (10YR6/1)	白 (10YR6/2)	1mm以下の灰物・砂粒	8.0	6.1	1.6	回転丸切 指揮鏡 內底分付骨 芯持
712	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	に淡・青黄 (10YR5/3)	に淡・青黄 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	8.3	6.4	1.3	回転丸切 指揮鏡
713	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	2mm以下の灰物・砂粒	8.2	6.2	1.2	回転丸切 反転復元
714	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	2mm以下の灰物・砂粒	8.3	6.4	1.4	回転丸切 ナラ 內底クロロ 直
715	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	8.1	6.4	1.4	回転丸切 指揮鏡
716	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	灰白 (10YR5/1)	灰白 (10YR5/2)	3mm以下の灰物・砂粒	8.1	6.4	1.2	回転丸切 壱持
717	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	2mm以下の灰物・砂粒	8.2	6.5	1.6	回転丸切 指揮鏡 内底復原
718	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	灰白 (10YR5/1)	灰白 (10YR5/2)	1mm以下の灰物・砂粒	8.2	6.7	1.4	回転丸切 指揮鏡 直
719	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	8.2	6.8	1.5	回転丸切 指揮鏡 直
720	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	に淡・青黄 (10YR7/2)	に淡・青黄 (10YR7/2)	2mm以下の灰物・砂粒	8.3	6.6	1.6	回転丸切 指揮鏡 反転復元
721	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	灰白 (10YR5/1)	灰白 (10YR5/2)	1mm以下の灰物・砂粒	8.7	7.1	1.6	回転丸切 指揮鏡 壱持
722	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/4)	淡黃金 (10YR5/4)	1mm以下の灰物・砂粒	8.7	7.2	1.8	回転丸切 指揮鏡 直 反転復元
723	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	に淡・青 (7SYR7/4)	に淡・青 (7SYR7/4)	2mm以下の灰物・砂粒	8.4	6.7	1.3	回転丸切 指揮鏡 反転復元
724	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	に淡・青黄 (10YR7/3)	に淡・青黄 (10YR7/3)	1mm以下の灰物・砂粒	8.1	6.9	1.3	回転丸切 指揮鏡
725	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.0	6.0	1.2	回転丸切 指揮鏡 外翻指揮鏡
726	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	5mm以下の灰物・砂粒	7.5	6.1	1.3	回転丸切 指揮鏡 反転復元
727	土器類	小瓶	SD22-23	-	-	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	4mm以下の灰物・砂粒	7.4	6.4	1.5	回転丸切 指揮鏡 逆持 反転復元
728	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	に淡・青 (7SYR7/3)	に淡・青 (7SYR7/3)	2mm以下の灰物・砂粒	7.4	6.6	1.5	回転丸切 ナラ
729	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→瓶ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	1mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.6	1.7	回転丸切 指揮鏡 内底クロロ
730	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ→ナラ	淡黃金 (10YR5/3)	淡黃金 (10YR5/3)	2mm以下の灰物・砂粒	7.6	6.7	1.2	回転丸切 板状頂灰 壱持
731	土器類	小瓶	SD22-23	圓柱ナラ	圓柱ナラ	淡黃金 (7SYR5/2)	淡黃金 (7SYR5/2)	1mm以下の灰物・砂粒	6.6	5.1	1.3	回転丸切 内底蓋 灰復元

第51表 SD22・23 内出土遺物観察表 土器類

番号	種別	器種	出土場所	調査(外観)	調査(内面)	色調(外観)	色調(内面)	形状	寸法(cm)	底径	壁高	備考
732	石製品	鏡石	SD22-23	-	-	-	-	-	39	34	07	12.9g
733	鐵冶西造	漆器	SD22-23	ナマ	-	-	-	2mm以下の底物・砂粒	-	-	-	漆器類 内部頸部
734	七輪器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透	透	2mm以下の底物・砂粒	134	70	4.0	四輪へタ切 ナマ 反転復元
735	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透	透	5mm以下の底物・砂粒	135	75	4.3	圓軸ヘタ切 ナマ
736	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	126	7.9	3.9	環状 内外鉄分付着
737	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	121	80	3.6	圓軸系切 蓋(内底ロクロ)付 内外鉄分付着 頸部
738	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	128	54	3.2	圓軸系切 外鉄分付着 反転復元
739	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	124	84	3.5	環状 外鉄分付着
740	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	129	89	4.0	圓軸系切 内外鉄分付着
741	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	126	85	3.5	圓軸系切 條状灰 黄褐色 土師粘土類
742	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	118	82	3.7	圓軸系切 條状灰 黄褐色 内外鉄分付着
743	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	108	84	3.6	環状切 ナマ 内外鉄分付着 反転復元
744	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透白	透白	ごく微小の底物・砂粒	105	84	3.3	圓軸系切 ナマ 薄(内底ロクロ)付 反転復元
745	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	114	81	3.9	圓軸系切 蓋(内底ロクロ)付 内外鉄分付着 小孔
746	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	114	81	3.7	圓軸系切 條状灰 黄褐色 土師粘土類 反転復元
747	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透白	透白	1mm以下の底物・砂粒	116	85	3.3	内外鉄分付着 環状 外鉄復元
748	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	112	82	3.7	圓軸系切 條状灰 黄褐色 土師粘土類 内外鉄分付着 反転復元
749	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	112	92	3.0	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄復元
750	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	120	86	3.1	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄分付着 反転復元
751	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	123	87	3.8	圓軸系切 ナマ 外鉄復元 内外鉄分付着
752	土師器	环	SD31	圓軸ナマ→ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	124	87	4.1	圓軸系切 ナマ 内底ロクロ付 内外鉄分付着
753	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	124	90	3.7	圓軸系切 内外鉄分付着 反転復元
754	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	125	91	3.6	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄分付着 反転復元
755	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	124	90	4.2	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄分付着 反転復元
756	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	123	90	3.3	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄復元 内外鉄分付着
757	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	124	90	3.3	圓軸系切 條状灰 黄褐色 外鉄分付着 反転復元
758	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	124	94	3.7	圓軸系切 條状灰 黄褐色 内外鉄分付着 反転復元
759	土師器	环	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透白	透白	ごく微小の底物・砂粒	-	7.8	-	圓軸系切 内鉄分付着
760	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	2mm以上の底物・砂粒	26	61	1.3	圓軸系切 内外鉄分付着
761	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	26	64	1.3	圓軸系切 條付着 反転復元
762	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	23	68	1.4	圓軸系切 外鉄分付着
763	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	23	68	1.5	圓軸系切 條状灰 黄褐色 内外鉄分付着
764	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	23	66	1.6	圓軸系切 内外鉄分付着 反転復元
765	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透白	透白	2mm以下の底物・砂粒	24	69	1.7	圓軸系切 條状灰 黄褐色 内外鉄分付着
766	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	ごく微小の底物・砂粒	23	75	1.6	圓軸系切 條状灰 黄褐色 内外鉄分付着 反転復元
767	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	3mm以下の底物・砂粒	27	68	1.1	外鉄分付着 反転復元
768	土師器	小皿	SD31	圓軸ナマ	圓軸ナマ→ナマ	透青緑	透青緑	1mm以下の底物・砂粒	-	63	-	圓軸系切 頸部 黄褐色 外鉄分付着 反転復元
769	土師器	小皿	SD32	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	2mm以下の底物・砂粒	74	60	1.4	圓軸系切
770	土師器	小皿	SD32	圓軸ナマ	圓軸ナマ	透青緑	透青緑	ごく微小の底物・砂粒	77	61	1.3	圓軸系切 條状灰 内鉄頭部
771	鉄製品	?	SD32	-	-	-	-	-	36	27	0.3	下部欠損

第52表 SD22・23・31・32 内出土遺物観察表 土師器・石製品・鍛冶関連製品・鉄製品